

調査報告

磐梯町所蔵・山口弥一郎旧蔵ノート

－ 解題と目録 －

内山大介*・大里正樹*・山口 拡*・辻本侑生**

はじめに

山口弥一郎(1902～2000)は福島県新鶴村(現会津美里町)に生まれ、東北の地理学・民俗学に多大な業績を残した研究者である。特に明治・昭和の三陸津波後の集落移動の研究で知られ、東日本大震災後には著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊して全国的に注目された。また一方で東北各地のフィールド調査を精力的に行い、多くの論考を世に出している。郷里である福島県では、県内の民俗研究を黎明期から支えた人物の一人であり、その成果は各地の自治体史や調査報告書等にまとめられている。

没後にはその研究人生を物語る膨大な資料が残されたが、そのうちノートや原稿、写真などの調査研究資料は磐梯町に2005年度に寄贈され、山口家に残された古文書(山口家文書)及び調査の過程で収集された古文書類は郷里である会津美里町に2007年度

に寄贈された。特に磐梯町の磐梯山慧日寺資料館で保管されてきたノートや写真、映像、原稿、蔵書等の調査研究資料は研究者資料として非常に貴重なものであるが、従来の博物館資料とは性格が異なるため整理方法も確立されておらず、なかなか整理作業は進まなかった。そこで、2014年度末に磐梯町と福島県立博物館は、それぞれ町長、館長の連名により「『山口弥一郎旧蔵資料の整理と活用に向けた調査研究』のための協約書」を取り交わし、同資料群について共同で整理作業と調査を進めることになった。当館では2015年度から蔵書を除く調査研究資料を借用してその整理を進めてきた。

後述するように、本資料群はその種類も多様であり、また分量も膨大である。現在も整理作業は継続中であるが、研究者をはじめとして同資料群への注目度は高い。そこで本稿では、山口弥一郎の研究者としての一生を振り返るとともに、当館で進めてきた整理事業を紹介し、その一部を目録の形で公開する。

1. 山口弥一郎の調査研究歴

山口弥一郎は、地理学、民俗学、さらには福島県及び県内自治体の文化財保護や郷土史研究において膨大な業績を残した研究者である。山口の多岐にわたる調査研究歴のすべてを整理することは難しいが、本章では(1)磐城勤務期まで、(2)岩手勤務期・新鶴村帰郷期、(3)会津・東京勤務期から晩年まで、の3つの時期に大きく分けた上で、その軌跡を概観してみたい。

なお、山口の調査研究歴については、ご子息である山口大二郎氏によって整理がなされている(山口2012)。また、山口の携わった各学問分野の立場から、山口の調査研究等についてとりまとめた文章として、人文地理学では竹内(1986)、竹内(1995)、Takeuchi(2000)、五十嵐(2000)、岡田(2013)など、民俗学では岩崎(2000)、鷲山(2000)、和田(2000)、六車(2004)、松本(2008)、石井(2012)、川島(2013)、川島(2014)、笠井(2014)など、考古学では中村(2000)が挙げられる。さらに東日本



写真1 岩手県釜石市唐丹町の津波碑と山口弥一郎(1961年)

*福島県立博物館, **浜銀総合研究所

表 山口弥一郎の調査研究歴年表

年	年齢	所属・出来事
1902	0	福島県新鶴村（現会津美里町）の、旧肝煎家の長男として誕生
1922	20	福島県立会津中学校卒業
1923	21	福島県師範学校2部卒業
1924	22	1年間の兵役（歩兵第65連隊）を終え、坂下小学校訓導として勤務
1925	23	福島県立磐城高等女学校教諭
1928	26	文部省中等学校教員資格検定試験（通称「文検」）合格
1935	33	佐々木彦一郎の紹介で、柳田国男と会う
1940	38	岩手県立黒沢尻中学校教諭（岩谷堂高等女学校教諭兼任）
1942	40	東北帝国大学農学研究所嘱託研究員
1945	43	岩手県立岩谷堂高等女学校教頭、翌年退職
1947	45	教職復帰、福島県立会津高等女学校教諭
1953	51	会津若松の自宅に東北地方農村生活研究所を設立
1956	54	福島県立会津農林高等学校校長代理
1957	55	福島県文化財専門委員
1959	57	河北文化賞受賞
1959	57	東京文理科大学より理学博士取得（主査青野壽郎）。同年、会津農林高等学校退職
1962	60	福島県史編纂委員
1963	61	亜細亜大学非常勤講師、東京転居
1964	62	福島県文化功労賞受賞
1965	63	亜細亜大学教授
1972	70	創価大学教授
1976	74	勲四等瑞宝章受章
1989	87	創価大学退職、会津若松に帰郷
2000	97	死去

大震災後には、青井哲人が都市史・災害史の視点から山口の津波研究を再評価している（青井2011）。本章では、以上に挙げた文章等を参考にしつつも、山口の著作と旧蔵資料をもとに調査研究歴を再構成していく。

(1) 磐城勤務期まで（1902～1940年）

山口は1902年、福島県新鶴村（現会津美里町）の旧肝煎家の長男として生まれた。1922年に福島県立会津中学校を卒業、1923年に福島県師範学校2部を卒業し、坂下小学校訓導となった。1年間の兵役を経て、1925年に磐城高等女学校に教諭として赴任した。

磐城に着任した山口は地理学を専門と定め、文部省中等学校教員資格検定試験（通称「文検」）に向けた学習を進め、1928年に合格した。あわせて地理学に関する調査研究を進め、処女論文「平地方の地形・地質1」（山口1926）を皮切りに、磐城地方に関する地理学的な論文を発表していった。特に山口は勤務地周辺に広がっていた炭鉱集落の研究に取り組み、炭層の掘削が進むにつれ、それと並行して炭鉱町も移動していく現象に着目した。これらの研究成果は、他地方との比較を含め、日本地理学会の機関誌等に発表されている（山口1934）。

さらに山口は、炭鉱集落調査で指導を仰いだ福島県出身の渡辺萬次郎（東北帝国大学教授）の紹介で、東北帝国大学教授の田中館秀三に師事するようになった。岩手県出身の田中館の示唆を受けつつ、1933年の昭和三陸津波や1934年の凶作の被害を受けた東北地方各地の農山村や漁村で調査を行い、津波常習地の集落移動や、凶作に立ち向かう山村の生業（雑穀作や焼畑等）に関して研究成果をまとめていった。

他方で、田中館との津波調査の過程で民俗学的な関心を抱くようになり、日本地理学会で接点があった佐々木彦一郎（東京帝国大学地理学教室助手）を介して、柳田国男を紹介された。柳田を通じて、磐城で郷土研究を続けてきた高木誠一の知己を得て、高木、山口、さらに磐城高等女学校の同僚の岩崎敏夫と3人で磐城民俗研究会を結成し、信仰や芸能等に関する民俗調査を進めていった。

このように、山口の磐城勤務期は、地理学の田中館、民俗学の柳田の両者から指導・薫陶を受けつつ、様々なテーマやフィールドでの調査経験を積み、研究者としての基礎を作った時期であった。

(2) 岩手勤務期・新鶴村帰郷期（1940～1947年）

1940年、岩手県立黒沢尻中学校教諭に転任することとなった山口は、磐城を離れ、家族とともに岩手

県和賀郡黒沢尻町（現北上市）に転居した。岩手時代の山口は、夏と冬の休暇を利用して東北地方各地での現地調査を継続するとともに、1930年代に書き溜めてきた炭鉱集落研究、津波研究、山村研究に関する論文を、相次いで著書としてまとめた（山口1942、山口1943、山口1944）。さらに、これまでの研究が評価され、1940～1941年には厚生省が主催する人口問題研究会で研究発表を行い、1942年には「人口都市配置に関する継続委員会」の委員に任命された。同じく1942年には東北帝国大学農学研究所の嘱託研究員に就任し、1944年には日本学術振興会より助成を受け、凶作の研究等に取り組んだ。

他方で、1945年には岩手の下宿先とその周辺の生活を「寄寓採録」(参与観察)によって事細かに記した「江刺の農村生活」をまとめた。さらに終戦直後の1946年には教職を辞して故郷の新鶴村に帰郷し、実家の農業を手伝う傍ら、実家や近所の暮らしを対象化する「帰郷採録」を行った。この「帰郷採録」によってまとめられた「会津の農村生活」は、研究者としての自身の葛藤をも対象化した、オートエスノグラフィとも呼びうる先鋭的な民俗誌である（山口1975）。

このように、山口にとっての戦中・終戦直後期は、大学や国などからの委託研究や委員委嘱等、研究者としての活動の幅が広がる一方、自身の葛藤や苦悩にも向き合いつつ、「寄寓採録」や「帰郷採録」という斬新な方法を試行していた時期であった。

(3) 会津・東京勤務期から晩年まで(1947～2000年)

1年以上にわたる「帰郷採録」を終え、山口は1947年に福島県立会津高等女学校（会津女子高等学校）教諭として教職に復職した。会津高等女学校においては、郷土研究部の顧問として生徒とともに郷土史の調査研究に打ち込んだ。さらに、1957年には福島県文化財専門委員、1962年には福島県史編纂委員に就任するなど、福島県内の文化財行政にも関わっていった。会津民俗研究会の会長や福島県民俗学会の顧問も務め、福島県内の市町村史編さん事業やダム水没村の民俗調査事業といった機会を通じて、県内の後進の民俗研究者の育成にも力を注いだ。

また、1953年には会津若松の自宅に「東北地方農村生活研究所」を設置し、自身の研究に打ち込める環境を整えた。戦前に行っていた三陸津波に関するフィールドワークも再開し、1960年には津波研究で博士論文をまとめて東京文理科大学から理学博士号を取得した（山口1960）。学位取得の翌年には高校を退職して大学におけるキャリアをスタートさせ、1963年から亜細亜大学非常勤講師に就任して東京に

転居、1965年には亜細亜大学教授に着任した。大学時代には、大学での講義内容を教科書として出版し（山口1966ほか）、海外調査にも力をいれた。特に1972年に創価大学に移ってからはシルクロード研究における卒塔婆（ストゥーパ）の研究に着手し、約10年をかけてその成果をまとめた（山口1983）。このように戦後の会津・東京勤務期の山口は、若き日の研究活動で得た知見を旺盛な出版活動や文化財行政、大学教育等によって活かしつつ、海外でのシルクロード研究という新たなテーマに取り組んでいた。

1989年に山口は創価大学を退職して会津若松に戻ると、かつて訪れた東北地方のフィールドを再訪し、3巻にわたる『東北地方研究の再検討』をまとめた（山口1991ab・1992）。活発な研究・執筆活動は晩年まで続き、1995年まで福島県文化財保護審議委員会委員長を務め、同年に93歳にして最後の著書『郷愁讃歌』を出版した（山口1995）。山口は2000年に97歳で亡くなったが、本旧蔵資料には亡くなる前年（1999年）に記されたものも残されており、文字通り山口が生涯にわたって研究に情熱を注いだことが伺える。

2. 山口弥一郎旧蔵資料の整理事業と「山口目録」

このように多様な研究遍歴を辿った山口だが、その足跡はノートをはじめ残された調査研究資料にも反映されている。当館では2014年度から調査研究事業「山口弥一郎調査資料の研究」を開始し、毎年数万円から十数万円の予算で整理・調査事業を行ってきた。関係者が月1回程度当館に集まり、整理作業を継続している。資料の簡易的なクリーニング、写真撮影、資料番号が記された短冊の挟み込みや封筒詰め、年代・標題・資料番号等のデータ入力、段ボールから中性紙箱への入れ替えなどが主な作業である。一方で、特にノート類のうちフィールドで使用したと思われるものは走り書きによる記載がほとんどで、解読には困難を伴うものが大半である。それらの内容の読解は整理作業とは別に少しずつ進めている。

対象となる資料は磐梯山慧日寺資料館に収蔵されていた段ボール箱で44箱であるが、中性紙箱への入れ替えの結果、現状で98箱に上っている。今後も増える見込みであり、いかに膨大な資料群であるかが分かる。内容も多様なものが含まれるが、資料の内訳を大まかに分類すると、以下のようになる。

- ①フィールドノートや新聞スクラップブック、自作の帳面などの各種ノート類
- ②原稿をはじめ多様な文書類が封筒等に入れられ

た調査資料

- ③ガラス乾板や紙焼き写真、ネガ・ポジフィルムを含めた写真資料
- ④VHSやフィルム等の映像資料
- ⑤手紙・葉書
- ⑥手帳・スケジュール帳
- ⑦レコード
- ⑧その他

箱の数でいえば①②が大半を占めており、全体の9割近くに上ると思われる。また特に②は特定のテーマや調査地ごとにまとめた資料であるが、ひとつの包みに文書とともにノートや写真、手紙などが多く混在している。2018年度末の段階では、①②についての簡易整理がほぼ終了しており、③以降の整理は継続中である。

上述した旧蔵資料の全体のうち、本目録で対象とするのは①に該当するが、そのなかでも山口弥一郎自身がノート番号を付与していた資料に絞って紹介する。山口は生前、自身のノートに番号をつけて整理し、目録化して管理していた。著書『山口弥一郎選集』第12巻には「地理・民俗採集ノート索引目録」と題した一覧に1から195番までのノートの標題・年代が掲載され（山口1980）、『東北地方研究の再検討』天の巻の巻末には「調査資料採集ノート索引目録（二）」として196から265番までが同様に掲載されている（山口1991a、以下両者を合わせて「山口目録」と表記）。その後も山口は自身のノートに番号をつけて整理を続けていたようで、現在の整理作業では305番までのノートを確認している。山口は生前、自身のノートについて以下のように述べている。

採集ノートは特に索引までつけて保存してある。このノート保存が、書庫を最初に鉄筋コンクリートで作ろうとした意図でもあった。

終戦後一切の職を辞して、北上の山村の寄寓生活を打ち切って帰郷・帰農採録に、私の研究生生活の最後を賭けようと引揚げた際も、私の背にあったリックには、この百数十冊の採集ノートのみが収めてあった。これを護り通す限りは、私の東北研究はつづけられると思っていたからである。

（山口1984）

また初期のノートのいくつかには、巻末に連絡先が記され、紛失時に発見・送付された折には謝礼を進呈する旨の記述も見受けられる。研究者の財産として、山口がいかにノートを大切に考えていたかがうかがえる。特に1から305まで番号が振られたノートには、背表紙に番号札が貼付されており、書棚に



写真2 山口家書庫の採集ノート保管状況
（川島秀一氏提供・1995年）

入った状態でも番号を確認できるようにされていた。これらは膨大なノートの中でも山口が重要だと考えていたものであることは確かであろう。本稿でも、山口が付与したノート番号と山口目録をベースにしながら、これを再構成する形で目録を作成した。

しかしその一方で番号がみられず、索引化されていないノートも多数存在している。また採集ノートに限らず、新聞スクラップに使用したノートや広告などの裏紙を利用して自作した帳面など、紙を綴り合わせたものを広義のノートにとらえれば、全体としてノートは本目録の倍以上の数になると思われる。また「山口目録」には番号とともに記載があるものの、その所在を確認できないノートもある。

3. 山口弥一郎旧蔵ノート目録の概要

最後に、本稿末尾に掲載した「山口弥一郎旧蔵ノート」について、その概要を山口の調査研究歴を念頭に置きながら簡単に述べてみたい。

年代として最も古いのは磐城高等女学校時代の1929年に炭鉱集落や北海道開拓に関する調査などを記したノート（ノート番号1）で、最も新しいものは亡くなる直前の1998～1999年に使用した宗教関係のメモや新聞記事を貼り付けたノート（ノート番号305）である。山口が地理学や民俗学の調査研究を始めた頃から晩年に至るまで利用したノートが揃っており、多少の前後はあるものの、番号は概ね年代の古いものから新しいものへと順に振られているといえる。

また傾向として、昭和戦前期のノートでは同時代に行った調査記録が場所やテーマに関わらず1冊のノートに記されている一方、戦後のノートはテーマや調査地ごとに1冊ずつ作成している場合が多い。それに合わせて、携帯に便利な小型のノートからA



写真3 民間伝承の会発行の採集手帖（上段左からノート番号18・19・22、下段左から20・21）

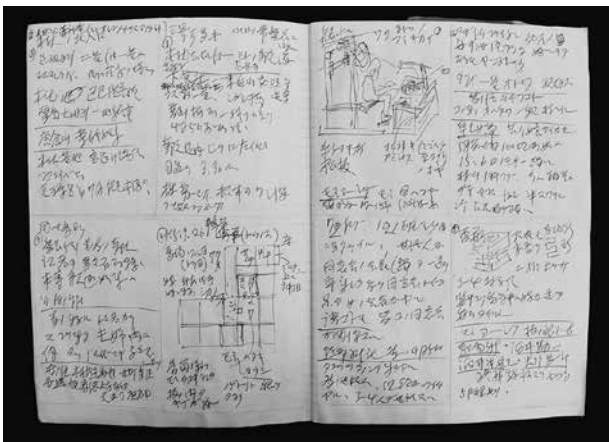


写真4 メモ用紙を多数貼り付けた大学ノート
（ノート番号150）

4版の大学ノートへと大きさにも変化が見られ、大学ノートには1枚ずつのメモ用紙に聞き書きの成果を記し、それを並べて貼り付けたものが目立つようになる。調査地で使ったと思われるフィールドノートには聞き書きの成果と合わせて地形や家並み、民家の間取りや民具、石造物などのスケッチ画も多く、統計的な表を記したものや文献資料の抜書きもみられる。一方で年代が新しくなるほど新聞記事の切抜きや会議資料、各種パンフレット等を貼り付けたノートが増え、フィールドノートというより仕事別に情報をまとめたノートという性格が強くなる。

時期別に内容を概観すると、まず昭和戦前における磐城勤務期のノートには、炭鉱集落や三陸津波の調査、凶作・廃村に関する調査など、東北を中心として各地を精力的に巡り歩いた記録が残されており、また柳田国男や田中館秀三との交流を示すノートも多い。柳田を中心とする民間伝承の会が発行した採集手帖（沿海地方用・食習採集手帖を含む）が7点含まれ（うち2点は所在未確認）、また昭和戦前期のノートには柳田国男や田中館秀三を訪問した際の記

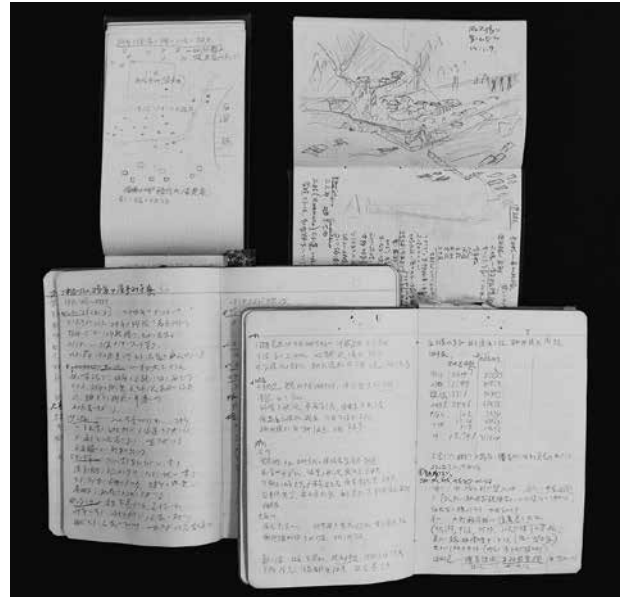


写真5 三陸津波調査関係のノート（上段左からノート番号4・5、下段左から9・10）

録が数冊見受けられる。

また岩手に移住してからのノートには青森・岩手・宮城などの東北各地での調査記録が多く、江刺における「寄寓採録」による調査成果をはじめ、岩手で経験した終戦直後という時代における農村の状況も細かく記録されている。さらに会津に戻ってからの1940年代後半では、「農村生活誌」と題したノートを数冊に渡って作成し、自身の生活記録を細かく記した。1950年代に入ると、岩手や青森の調査と並行して会津における調査を精力的に進めたことがノートからもうかがえ、また教職復帰後は勤務先であった会津高等女学校（会津女子高等学校）の郷土研究部による調査記録も多数残されている。さらにこの頃から県内の自治体史編さんや文化財専門委員としての仕事に関わるノートが増え、特に1950～60年代にかけては相対的に福島県内での調査記録の割合が大きくなるが、一方で博士論文にもつながる三陸をフィールドとした研究の下書きを記したノートも数冊含まれている。

また1960年代後半から70年代にかけては大学の講義録や海外への調査旅行を記録したノートが増え、特に1970年代後半はストウパ、シルクロードに関する調査旅行の内容が多い。海外への調査は夫妻での旅行や単身での調査旅行、調査団による調査旅行があり、パンフレットやチケットなどが貼り付けられたものが多数見られる。さらに1980年代から90年代にかけては、著書『東北地方研究の再検討』に関する調査記録や原稿の下書きを記したノートのほか、「人生精進論」と題して自らの人生を振り返りながら随想を記したノートが多い。これらには新聞記事

の切抜きも多数あり、当時の事件や事故に対しての自身の思いを綴っている。

おわりに

本稿末尾に掲載した目録は、当館で整理を進めている資料の全体からすればほんのひと握りに過ぎない。しかしこれらのノートは山口弥一郎が自身の財産として大切に保管していたものであり、研究者としての山口の思想や研究法、あるいは生き様そのものを物語る基礎資料である。またそのノートに書き留められた昭和初期からの東北各地におけるフィールド調査の成果から、現在の地域を民俗学・地理学的にとらえ直すことも可能であろうし、研究史を再構成するための重要な資料としてそれらを活用することもできるだろう。本目録がそのための一助となることを願う。

附記

山口弥一郎旧蔵資料の整理作業は当館民俗分野の学芸員が中心となって進めているが、生前の山口と交流のあった福島県民俗学会会長の佐々木長生氏や同学会副会長の小澤弘道氏にも協力を仰いでいる。また外部協力者として、浜銀総合研究所研究員の辻本侑生氏にも作業への参加をお願いしている。

本稿の本文については、「1. 山口弥一郎の調査研究歴」を辻本侑生氏が、それ以外を内山大介が執筆した。末尾の目録については整理作業で作成したデータベースをもとに、内山大介・大里正樹・山口拓が整備した。

参考文献

- 青井哲人 2011「事後のアーカイビング：山口弥一郎に学ぶ」『建築雑誌』126（1624）
- 石井正己 2012「山口弥一郎の東北地方研究」石井正己編『震災と語り』三弥井書店
- 五十嵐勇作 2000「山口弥一郎先生の逝去を悼む」『福島地理論集』43
- 岩崎敏夫 2000「山口さんと私」『福島の民俗』28
- 岡田俊裕 2013「山口弥一郎」『日本地理学人物事典 近代編2』原書房
- 笠井 尚 2014「東北民俗学と山口弥一郎－柳田の影響と『帰郷採録』の方法論」『季刊日本主義』25、白陽社
- 川島秀一 2013「津波と伝承－山口弥一郎『津浪と村』をめぐって」『津波のまちに生きて』富山房インターナショナル
- 川島秀一 2014「三陸大津波と漁村集落－山口弥一郎『津浪と村』を受け継ぐために」『歴史と民俗』30
- 竹内啓一 1986「実学としての東北研究－地理学と民俗学と－山口弥一郎先生に聞く」竹内啓一・正井泰夫編『地理学を学ぶ』古今書院
- 竹内啓一 1995「山口弥一郎の地理学」『一橋論叢』114(3)
- 中村五郎 2000「山口弥一郎先生と石城版『後狩詞記』」『福島史学研究』70
- 松本三喜夫 2008『柳田国男の忘れもの』青弓社
- 六車由実 2004「焼畑研究ノート1 昭和18年の山口弥一郎の牛房野調査に関して」『東北芸術工科大学東北文化研究センター研究紀要』3
- 山口弥一郎 1926「平地方の地形・地質1」『郷土文化』4（1）
- 山口弥一郎 1934「炭鉱集落の漸移性」『地理学評論』10（7）
- 山口弥一郎 1942『炭鉱集落』古今書院
- 山口弥一郎 1943『津浪と村』恒春閣書房
- 山口弥一郎 1944『東北の焼畑慣行』恒春閣書房
- 山口弥一郎 1960『津波常習地三陸海岸地域の集落移動 津波災害防禦対策実施状態の地理学的検討』東京文理科大学博士論文
- 山口弥一郎 1966『地理学概論』文化書房博文社
- 山口弥一郎 1975『寄寓・帰郷採録（山口弥一郎選集第4巻）』世界文庫
- 山口弥一郎 1980『東北地方の諸問題（山口弥一郎選集第12巻）』世界文庫
- 山口弥一郎 1983『踏査記シルクロードのストゥーパ』国書刊行会
- 山口弥一郎 1984『体験と民俗学』文化書房博文社
- 山口弥一郎 1991a『東北地方研究の再検討』天の巻、文化書房博文社
- 山口弥一郎 1991b『東北地方研究の再検討』地の巻、文化書房博文社
- 山口弥一郎 1992『東北地方研究の再検討』人の巻、文化書房博文社
- 山口弥一郎 1995『郷愁讃歌』文化書房博文社
- 山口弥一郎著、石井正己・川島秀一編 2011『津浪と村』三弥井書店
- 山口大二郎 2012「父」石井正己編『震災と語り』三弥井書店
- 鷲山義雄 2000「山口弥一郎先生を偲ぶ」『福島の民俗』28
- 和田文夫 2000「山口弥一郎先生を偲ぶ」『福島の民俗』28
- Takeuchi Keiichi 2000. Yaichiro Yamaguchi and Folklore. in Takeuchi Keiichi. Modern Japanese Geography : An Intellectual History. Kokon Shoin.

山口弥一郎旧蔵ノート目録

凡例

- 下表は福島県磐梯町が所蔵する山口弥一郎旧蔵資料のうち、山口弥一郎自身が付番し管理していたノートの目録である。
- 「ノート番号」は山口弥一郎自身が付与した番号であり、この順番で掲載した。
- 「ノート番号」には重複がみられ、132、165、175、192、241、303、305番がそれぞれ2冊存在しているが、いずれもノート自体に記載された番号をもとにそのまま記載している。163番の重複は「山口目録」での記載上の重複である。
- 「整理番号」はYから始まる番号で、当館での整理に当たり新たに付与した番号である。
- 「旧箱番号」は磐梯山慧日寺資料館での保管時に収納されていた箱に対して、当館での整理に当たり付与した番号である。
- 「標題」にはノート表紙や背表紙、または扉に実際に記載されたタイトルを優先して採用した。ノート自体に標題の記載がない場合や判読が困難な場合、事項の羅列で標題としては使えない場合には表紙に最も大きく書かれた文字列を利用するか、「山口目録」の標題を利用した。「山口目録」の標題も事項の羅列等で使えない場合には、内容から仮につけた標題を〔 〕で表記した。
- 「年代」にはそのノートが最初に使われた年を和暦と西暦でそれぞれ記した。
- 「主な内容」には、ノートの記載内容や年月日などを簡単に記した。「山口目録」に標題として調査地等の詳細が記されているノートに関しては、その情報をもとにしつつ、実際の記載内容と照合しながら加除修正をしてここに記した。
- 「山口目録」に番号つきで掲載されているにもかかわらず、整理作業で所在が確認できていないノートが全312冊のうち14冊ある。これらについては一覧に「所在未確認」と記した。
- 「標題」、「主な内容」に記載した地名は原則としてノートの表記に従っている。そのため現地名とは異なっている場合があるが、明らかなる誤記については修正した。
- 「柳田國男」、「田中館秀三」の表記は「柳田國男」、「田中館秀三」に統一した。
- 目録には差別的な表現になりうる用語も一部含まれているが、山口自身が使用した用語が当時の社会状況をそのまま伝えられるとの認識によるものであり、差別を助長する意図はない。

ノ一 番号	整理 番号	旧箱 番号	標 題	年 代 (和暦)	年 代 (西暦)	主 な 内 容
1	Y1	1	[福島炭坑の踏査他]	昭和4年	1929年	福島炭坑の踏査(昭和5年1月4日)、北海道上濁川盆地の開拓景(昭和6年8月7日)、石狩炭田に関する調査(昭和6年8月10日)、高岡熊雄博士ノ教授ヲ受ク(昭和6年8月10日)、北海道旅行覚書(昭和6年8月18日)、北海道永山屯田兵村調査(昭和6年8月17~18日)、中部盆地調査旅行(昭和4年11月)、磐城の石器調査(昭和5年)などの調査記録やメモ。
2	Y2	1	[磐城の郷土調査・四ツ倉・江ノ網・大津・密度調査他]	昭和6年	1931年	磐城の郷土調査・四ツ倉・江ノ網・大津・密度調査(昭和6年11月22日・12月27日)、相模原踏査(昭和7年1月16日)、大浦村上仁井田古墳・大野村地蔵(昭和7年5月15日・7月7日)、方城炭鉱調査(昭和7年8月21日)、飯野村マンモス化石(昭和7年9月30日)、鮫川流域調査(昭和8年1月22日)、宇箭山(昭和8年10月22日)、片雲平蔵の研究(昭和8年10月29日)、内郷村白水(昭和8年11月3日)、宇部炭田調査(昭和7年7月)、満州旅行覚書スケッチャー・二(昭和7年7~8月)などの調査記録やメモ。
3	Y3	1	[磐城地方の古墳と化石調査他]	昭和10年	1935年	磐城地方の古墳と化石(高久村)(昭和10年1月13日・4月28日・5月10日・5月19日)、福島県南会津郡における田高祇園祭・曲家・松枝岐及戸倉の作り研究(昭和10年7月23~29日)、青森県八戸調査(昭和10年8月7~9日)、青森県八甲田山(昭和10年8月11日)、岩手県二戸郡田山村調査(昭和10年8月15日)などの調査記録。
4	Y1455	31	三陸地方ノ津浪ニ依ル集落移動調査	昭和10年	1935年	磐城地方の民俗採集(昭和10年9月15日)、三陸地方(気仙沼市唐桑から下閉伊郡田老)の津波による集落移動調査(昭和10年12月25日~11年1月2日)、岩手県下閉伊郡川井村夏屋の話(昭和11年1月2日)などの調査記録。
5	Y1456	31	炭礫聚落 三陸津波	昭和7年	1932年	常磐炭田の炭礫集落(昭和7年12月26日、昭和10年11月1~29日)、宇部の炭礫集落(昭和9年7月25日、昭和10年7月25日)、琉球・台湾旅行覚書(昭和9年8月)、筑豊の炭礫集落(昭和9年7月25日)、三陸地方(重茂村)の津波と集落(漁村の生活研究を含む)(昭和18年1月2~8日)などの調査記録。
6	Y1457	31	[福島県双葉郡川内村調査他]	昭和11年	1936年	福島県双葉郡川内村調査(昭和11年6月6~7日、7月22~25日)、山形県天童町(温泉・将鞍駒製法-東北地方経済地理研究会)(昭和11年6月13~14日)、宮城県鹿島台村・品沼干拓調査(昭和11年7月4~5日)、福島県中村町瓜市(昭和11年7月)、福島県八沢浦干拓・新沼干拓(昭和11年7月26~27日)、福島県中村町市場(昭和11年7月27日)、福島県相馬藩の人口調査(只野淳氏宅)(昭和11年7月28日)、福島県掛田生糸市場・梁川生糸市場(昭和11年7月28~29日)などの調査記録。
7	Y1458	31	会津地方ノ戸籍増減・川前・田人・泉	昭和11年	1936年	会津地方の集落と人口移動調査(昭和11年8月13~15日)、安達太良山麓の木地小屋(昭和11年8月16~17日)、福島県川前村民俗調査(昭和11年8月27日)、福島県田人・荷路夫・貝沼村民俗調査(昭和11年11月22~23日)、福島県河沼郡朝立(母の話)(昭和11年11月)、福島県石城地方の生活調査-田人村大平のヒカリゴケ平町長源寺(昭和12年6月)、福島県志賀沢之介の農家経営(昭和12年2月21日)、福島県平町調査(市場など)(昭和12年4月~13年2月11日)などの調査記録。
8	Y1459	31	下北東通村・上北三澤村	昭和11年	1936年	青森県下北半島の漁村調査(東通村の共同体村落)(昭和11年12月24日~12年1月1日)、青森県上北郡三沢村(昭和12年1月2~3日)、福島県磐城地方民俗写真解説(トリゴヤヤなどの民俗調査)(昭和13年2月13日)などの調査記録。
9	Y1460	31	岩手北部津浪・磐温泉・岩手北部小作	昭和12年	1937年	三陸沿岸津波と集落移動調査(北部-八木・大浜・野田・久慈)(昭和12年1月3~8日)、岩手県九戸郡久喜の漁村屋号調査(昭和12年1月5~6日)、盛岡附近・磐温泉集落調査(昭和12年1月8~10日)、山形県新庄町市場(昭和12年5月17日)、岩手県久慈の市場調査(昭和16年8月4~5日)、岩手県山根村・山形村の山村研究(昭和16年8月5~8日)、岩手県資料(菅野盛岡図書館長・郷土資料目録)(昭和16年8月31日)、岩手県稗貫郡八重畑村名子の旦那晴山家の調査(昭和16年11月19日・25日)などの調査記録。平成1年の山形村再調査の際のメモあり。
10	Y1461	31	宮城津浪・岩手小国・安家・川俣	昭和11年	1936年	宮城県北部(牡鹿半島~気仙沼)津波と集落移動(昭和11年7月31日~8月2日)、岩手県下閉伊郡小国村山村生活研究(昭和11年8月3~4日)、岩手県安家村(昭和11年8月5~10日)、福島県川俣羽二重市場(昭和11年8月11~12日)、福島県本宮町桑市場(昭和11年8月12~13日)、山形県北村山郡尾花沢牛房野・焼畑調査(昭和18年6月19~20日)などの調査記録。

ノット番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年 代 (和暦)	年 代 (西暦)	主 な 内 容
11	Y4	1	[磐城の郷土研究他]	昭和13年	1938年	磐城の郷土研究 (昭和13年4月9日)、福島県石城郡赤井村シメンメイ様 (昭和13年4月)、大浦村清戸 (昭和13年4月)、如來寺高久村神明像 (昭和13年4月)、大浦村長友 (昭和13年5月8～11日)、高久村獅子舞 (昭和13年10月7日)、泉村滝尻獅子舞 (昭和13年11月6日)、高木誠一氏の信仰の話 (昭和13年12月1日)、草野村獅子舞 (昭和14年4月23日)、喜田貞吉氏の磐城の話 (昭和14年2月2日)、磐城の古碑 (昭和15年3月16日)、入遠野村民俗調査 (昭和14年3月4～5日)、錦村御宝殿熊野神社祭礼行事 (昭和14年8月1日)、豊間村薄磯漁村民俗調査 (アナンハ様・賽河原) (昭和14年8月28日) などの調査記録やメモ。
12	Y5	1	[岩手県平泉見学他]	昭和13年	1938年	岩手県平泉見学 (昭和13年8月1日)、秋田県横手市場調査-ワカゼ市 (昭和13年8月1～2日)、秋田県戸沢・阿仁のマタギ集落研究 (昭和13年8月2～6日)、秋田県鷹巣の市場その他秋田の市場 (昭和13年8月8日)、山形県楯岡市場 (昭和13年8月8日)、山形県研究文献 (長井政太郎氏) (昭和13年8月8～9日)、山形県南置賜郡玉庭村 (昭和13年8月9日)、山形県東置賜郡中津川村木地小屋調査 (昭和13年8月9～10日) などの調査記録やメモ。
13	Y6	1	南会津の木地、山村 大沼三条ノ山村	昭和13年	1938年	福島県耶麻郡飯豊山麓の木地小屋 (昭和13年8月11～13日)、南会津郡の木地小屋研究 (昭和13年8月13～14日)、南会津市津・大沼郡三条の山村調査 (昭和13年8月15～18日) などの調査記録。
14	Y7	1	鳴子・鬼首・福岡 (岩手) 昭和一五. 四 岩手雑記(1)	昭和14年	1939年	宮城県鳴子温泉調査 (田中館先生と共に) - 鬼首の間歌泉・稗 (昭和14年8月6～9日)、岩手県二戸郡福岡町の生活研究 (田中館先生の御母堂の話) (昭和14年12月28～30日)、市場の話 (森喜兵衛氏) (昭和15年5月12日)、岩手県胆沢町孤立の孤立住宅の研究 (昭和15年7月16日～10月19日)、宮城県仙北地方の市場調査 (昭和15年8月7日)、岩手県黒沢尻の芦田調査 (昭和15年9月15日)、木村栄博士の話 (水沢緯度観測所にて) (昭和15年9月26日) などの調査記録やメモ。
15	Y8	1	田中館先生ノ母ノ話 (昭一四) 岩手ノ市場 (昭一五・八)	昭和14年	1939年	田中館秀三先生の母の話 (福岡町の生活研究) (昭和14年12月27～30日)、岩手県南部の市場調査 (奥玉村・千厩町・藤沢町・金沢大原・気仙沼・世田米・一ノ関) (昭和15年8月12日)、岩手県中部市場調査 (葦野・山田・宮古) (昭和15年8月15～17日)、岩手県の津波と集落 (田老・小本) (昭和15年8月17～18日)、岩手県葛巻の山村生活 (昭和15年8月18日)、岩手県浄法寺・荒屋新町、岩手県福岡町の市場 (昭和16年4月17日)、岩谷堂の市場 (昭和16年4月18日) などの調査記録やメモ。
16	所在未確認		採集手帖 (青森県下北郡東通村通村)	昭和11年	1936年	
17	所在未確認		採集手帖 (青森県東津軽郡三厩村)	昭和12年	1937年	
18	Y1462	31	採集手帖 (岩手県下閉伊郡小川村)	昭和14年	1939年	民間伝承の会発行の採集手帖。岩手県下閉伊郡小川村での調査記録 (昭和14年8月1～30日)。表紙に「福島県立磐城高等学校校友会郷土研究部」の押印があり、また「採集者」の欄には「中村六郎」と記載されている。
19	Y58	2	採集手帖 (福島県双葉郡川内村)	昭和11年	1936年	民間伝承の会発行の採集手帖。福島県双葉郡川内村の調査記録 (昭和11年5月～8月)。「採集者」の欄には「山口弥一郎」と記載されている。
20	Y59	2	採集手帖 沿海地方用 (福島県石城郡豊間村)	昭和14年	1939年	民間伝承の会発行の採集手帖 (沿海地方用)。福島県石城郡豊間村の調査記録 (昭和14年8月28～29日)。「採集者」の欄には「山口弥一郎」と記載されている。表紙裏には柳田国男から山口宛の小包の宛名と、送状のメモの貼付あり。
21	Y1463	31	採集手帖 沿海地方用 (岩手県上閉伊郡纏住居村両石)	昭和15年	1940年	民間伝承の会発行の採集手帖 (沿海地方用)。岩手県上閉伊郡纏住居村両石での調査記録 (昭和15年7月19日～)。「採集者」の欄には「和田文夫」と記載されている。和田から山口宛の手紙が添付されており、和田が調査後に山口に送ったものであることが分かる。
22	Y60	2	食習採集手帖 (岩手県和賀郡立花村)	昭和16年	1941年	民間伝承の会発行の食習採集手帖。岩手県和賀郡立花村吉内の調査記録 (昭和16年11月22～23日)。「採集者」の欄には「山口弥一郎」と記載されている。巻末に民間伝承の会からの調査依頼の葉書と、大政翼賛会・民間伝承の会連名による報告提出締切延長を知らせる葉書の貼付あり。

ノ一 番号	整理 番号	旧箱 番号	標 題	年代 (和暦)	年代 (西暦)	主 な 内 容
23	Y61	2	(青森県東津軽郡油川町他)	昭和12年	1937年	青森県東津軽郡油川町(昭和12年8月6日)、青森県三厩村字鉄(昭和12年8月6～11日)、青森県小泊村小泊及び下前(昭和12年8月11～12日)、青森県十三湖岸開拓集落の研究(昭和12年8月12～13日)、福島県須賀川町附近の市場その他(昭和16年8月11～13日)、山形県庄内地方の開拓(西遊佐村)(昭和16年8月16日)、秋田県新庄町の市場(昭和16年8月17日)、岩手県胆沢郡六原農村調査(昭和16年12月7日)などの調査記録。
24	Y62	2	(青森県深浦村調査他)	昭和12年	1937年	青森県深浦村調査(昭和12年8月12～15日)、秋田県南秋田郡戸賀村(昭和12年8月16～17日)、新潟県岩船郡下関村(昭和12年8月19日)、山形県小国村(昭和12年8月20日)、岩手県江刺郡郷土調査(昭和15年11月27日)、岩手県胆沢郡若柳村散村調査(昭和15年12月15日)、岩手県和賀郡黒沢尻町・泉の水温調査(昭和16年2月1日～3月1日)、市場調査(好摩・大更・花輪・黒石)の郷土研究の話(昭和16年3月26日)、青森県大川原マタギ調査(昭和16年3月25日)、森嘉兵衛氏・菅野善之助氏の郷土研究の話(昭和16年8月1日)、市場調査(三戸町・七戸町)(昭和16年8月1日)、リンゴの話(津軽・黒石附近)(昭和16年8月2日)、青森県図書館の郷土文献(昭和16年8月3日)、青森県横内村大雲谷凶作廃村研究(昭和16年8月3日)などの調査記録。
25	所在未確認		(青森県三戸郡名久井村アラク及び凶作廃村研究他)	昭和18年	1943年	
26	Y63	2	下北・岩手北部凶作二ヨル聚落ノ移動変遷調査	昭和17年	1942年	青森県下北郡下北半島西半の凶作廃村とマタギ研究(昭和17年8月5～9日)、岩手県二戸郡金田一村・小軽米村・大野村・普代村・田野畑村・岩泉町-凶作廃村と開拓・家号と名字調査(昭和17年8月13日)、岩手県岩手郡薮川村外山開墾部落調査(昭和17年8月13～14日)などの調査記録。
27	Y64	2	津軽一會津凶作・焼畑	昭和18年	1943年	青森県西目屋村田代・大秋凶作廃村(昭和18年8月11日)、秋田県荒瀬村焼畑慣行調査(昭和18年8月12日)、秋田県松木内村の焼畑(昭和18年8月12日)、富木友治氏の郷土研究の話・及び文献(昭和18年8月12日)、秋田県飯詰村調査(昭和18年8月14日)、秋田県郷土研究文献(角館図書館にて)(昭和18年8月13～14日)、秋田県由利地方の焼畑調査(昭和18年8月14～15日)、山形県鼠ヶ関附近の焼畑(昭和18年8月15日)、福島県河沼郡八幡村朝立の焼畑(母の話)(昭和18年8月15日)、福島県本名村川口の焼畑(昭和18年8月16日)などの調査記録。
28	Y1464	31	北上川流域の生活	昭和18年	1943年	岩手県藤根村開拓調査(昭和18年3月26日、5月8～10日)、岩手県岩瀬村(昭和18年3月29日)、岩手県永岡村(昭和18年4月10～11日)、岩手県金ヶ崎村(昭和18年7月9日)、岩手県若柳村(胆沢川上流の山村)(昭和18年6月12～13日)、岩手県鹿踊(沢田定三氏談)(昭和18年7月13日)、岩手県紫波郡志和村・山王海(昭和18年9月13～14日)、岩手県矢巾村・煙山村(昭和18年11月22日)、岩手県立花村食習調査(昭和18年11月23日)、岩手県相去村六原(昭和18年12月24日)などの調査記録。
29	Y1465	31	北上川流域の開拓	昭和18年	1943年	岩手県胆沢郡古城村(昭和18年12月30～31日)、岩手県赤石村・太田村・徳田村(昭和19年1月2～4日)、岩手県花巻町北方丁目猫塚新田(昭和19年1月5～6日)、岩手県徳岡村(昭和19年1月6日)、岩手県平泉村上達谷・巖美村上野(昭和19年1月15～16日)、岩手県福岡村青木田(昭和19年1月22～23日)などの調査記録。
30	Y65	2	(岩手県福岡村水押部落調査他)	昭和19年	1944年	岩手県福岡村水押部落調査(昭和19年1月23日、3月26～27日、7月15日、9月23日、12月23日)、福岡村青木田調査(昭和19年12月24日)、福岡村中島調査(昭和19年12月25日)、岩手県立花村塩釜(オクテン調査)(昭和19年1月25日～)、岩手県黒岩村(昭和19年2月1日、13日)、岩手県中内村上浮田・下浮田(昭和19年7月21～22日)、岩手県不動村散村(村田孝介氏談)(昭和19年8月18日、10月21日)、岩手県南都田村八幡(胆沢城跡)(昭和19年8月28日)、岩手県江釣子村下谷地(昭和19年8月30日)、岩手県黒沢尻尻尻蒲谷地(昭和19年10月24日)、岩手県福岡村水押調査(昭和20年5月12～13日)などの調査記録。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
31	Y1466	31	(青森県三戸郡階上村榊部落の食習他)	昭和19年	1944年	青森県三戸郡階上村榊部落の食習(昭和19年8月7日)、岩手県九戸郡種市村城内部落の食習(昭和19年8月7～9日)、青森県三戸郡階上村野沢部落の食習(昭和19年8月9日)、青森県七戸町凶作廃村の食習(昭和19年8月10～11日)、青森県黒石町佐藤雨山氏の凶作廃村の話(昭和19年8月11日)、青森県小国村の食習(昭和19年8月12～13日)、山形県西村山郡西山村の食習(昭和19年8月14日)、秋田県平鹿郡山内村外山の食習(昭和19年8月15～16日)、宮城県柴田郡槻木の食習(昭和19年9月8日)などの調査記録。
32	Y1467	31	[宮城県栗駒村小深田の食習他]	昭和19年	1944年	宮城県栗駒村小深田の食習(昭和19年4月15～17日)、岩手県和賀郡藤根村の食習(昭和19年5月12～13日)、秋田県平鹿郡地方の食習(山内・大森・横手)(昭和19年5月14日)、岩手県紫波郡飯岡村の食習及び民俗調査(昭和19年5月20～21日)などの調査記録。村田孝介氏の陸中の散村研究要旨(昭和20年2月11日)のメモ。
33	Y66	2	内ノ浦実験部落調査 宮城県志田郡鹿島台村内ノ浦	昭和19年	1944年	宮城県志田郡鹿島台村内ノ浦(昭和19年3月29～30日)、山形県長瀬村(昭和19年8月13～15日)、長瀬郷土誌抄(明治四三年四月稿)(昭和20年3月25日)などの調査記録及びメモ。
34	Y1468	31	[岩手県稗貫郡湯口村豊沢部落調査他]	昭和17年	1942年	岩手県稗貫郡湯口村豊沢部落調査(昭和17年1月5～7日)、岩手県和賀郡沢内村(昭和17年5月2日、3～7日、7月10～11日)、柳田先生の話(昭和17年11月14日)、社会経済史学会東北部会(於福島)(昭和17年11月21日)、岩手県立花村沢目の地名調査(昭和17年11月22日)、東北の陸村例(日本学術振興会東北部会打合せ車中にて)(昭和17年12月27日)、山形・新潟・福島の学事視察(昭和18年3月4～6日)、青森市郷土会記録(昭和18年5月22～23日)、柳田先生の話(昭和18年6月6日、12月17日)、秋田県角館出張(秋田郷土芸能審査)(昭和18年9月12日)、黒沢尻染黒寺カッパの手形(昭和18年10月1日)、父の開拓の話(昭和18年12月18日)などの調査記録及びメモ。
35	Y67	2	[福島県小名浜港の古文書他]	昭和12年	1937年	昭和12年教育日記の転用。福島県小名浜港の古文書(昭和12年7月4日)、寺尾博士の話(内ノ浦実験部落にて)(昭和19年6月15日)、鎌田三五助の話(内ノ浦実験部落にて)(昭和19年6月15日)、渋沢敏三氏談(渋沢氏邸にて)(昭和19年3月4日)、田中館先生の話(昭和19年12月5日、3月4日)、岩田久敬博士の話(盛岡高農にてカノカブ分析)(昭和19年3月17日)などの調査記録及びメモ。
36	Y68	2	肥料・飼料調査 宮城県亘理郡 福島県石城郡	昭和19年	1944年	肥料・飼料の調査(昭和19年3月17日)、宮城県亘理町(昭和19年3月28～29日)、宮城県遠隈村鹿島・鷲屋(昭和19年12月28～29日)、福島県石城郡大浦村長友(和田丈夫氏宅)(昭和19年12月29日～20年1月2日)、福島県草野村北神谷(高木誠一氏宅)(昭和19年12月30～31日)などの調査記録及びメモ。
37	Y69	2	岩手県九戸郡種市村ノ凶作廃村ト食習	昭和19年	1944年	凶作廃村及食習調査(昭和19年8月7～9日)、岩手県九戸郡種市村城内(昭和19年8月9～10日)、南津軽郡竹館村小国(昭和19年8月12～13日)、仙台農学研究粉食講座座談(昭和21年4月29～30日)などの調査記録及びメモ。
38	Y70	2	岩手実験部落資料 黒沢尻一岩谷堂ヲ中心トシテ	昭和20年	1945年	ハモグリバエ黒沢尻農業座談会(昭和20年2月19日)、岩手県江刺栗川村(昭和20年6月10～11日)、岩手県水町・飛部落(昭和20年6月11～12日)、岩手県広瀬村・田原村・玉里村・米里村(昭和20年6月12日、14日、21日)、岩手県伊手村(昭和20年7月12日)、岩手県飯盛村藤巻(肥料)(昭和20年12月8～9日)、田中館先生の話(岩谷堂田町酒匂方に来泊)(昭和20年12月18～19日)、岩手県田原村(土谷原体の産育習俗)(昭和20年12月23～25日)などの調査記録。
39	Y71	2	陸中江刺稲瀬村生活誌Ⅰ(及川民寿郎氏宅ヲ中心トシテ)(江刺郡下諸村ノ生活誌モ含ム)	昭和20年	1945年	岩手県稲瀬村十三・玉里村笹野田・米里村の調査記録(昭和20年6月8日～8月9日)。調査メモ用紙10枚挟み込みあり。「敗戦当時の情景」と題した文章を、昭和20年8月20日、23日、24日、27日の4日間29ページに渡って記述。
40	Y72	2	陸中江刺稲瀬村生活誌Ⅱ(及川民寿郎氏宅ヲ中心トシテ)	昭和20年	1945年	巻頭に「戦争終結と疎開者立退キ」と題した文章あり(昭和20年8月30日)。岩手県稲瀬村における終戦直後の状況と、退去前後の日々を記述(昭和20年8月30日～10月18日)。岩谷堂高女での田中館秀三の講演記録もあり。

ノ一 番号	整理 番号	旧箱 番号	標 題	年 代 (和暦)	年 代 (西暦)	主 内 容
41	Y74	2	陸中・江刺・生活資料 於 岩谷堂	昭和20年	1945年	岩手県岩谷堂町滞在中に行った田原村土谷(昭和20年12月24～25日)・原体(昭和20年12月25日)、稲瀬村下台(昭和21年3月10日)などの調査記録。「女子教育ノ悩ミ」(昭和21年2月16日)、「学校経営者の反省」(昭和21年3月3日)、「芸術教育ノ悩ミ」(昭和21年3月24日)、「岩谷堂を去る決心」(昭和21年4月4日)など学校教育等に関する記述も多数。
42	Y75	2	陸中・江刺・農村生活研究資料 会津農村生活資料	昭和21年	1946年	岩手県岩谷堂町片附の開拓農事慣行の調査(昭和21年3月21日)、福島県榎倉町・石川町(昭和21年8月)の調査記録。新鶴村農政研究会(昭和21年12月18日)、新屋敷青年会座談会「農村文化の理想と現実」(昭和22年3月14日、研究会「健康生活の最低基準の研究」)、奥会津開発専門委員会(昭和22年7月29日)、岩谷堂座談会(昭和22年8月23日)などの記録。玄如節についてのメモ(昭和23年3月15日)。
43	Y73	2	陸中江刺稲瀬村生活誌Ⅲ	昭和20年	1945年	岩手県稲瀬村からの退去の記録と下台・十三調査の記録(昭和20年10月18日～12月2日)。稲瀬国民学校編「郷土教育資料」からの抜書きなど。
44	Y78	2	農村生活誌第8(主トシテ会津地方)	昭和22年	1947年	福島県新鶴村新屋敷新田帰郷後の山口自身の生活や、講演・講義の原稿、思索・葛藤の記録(昭和22年10月1日～24年5月10日)。「農村青年ト自由主義」、「農村生活の探録と整理」、「家族協力への道」、「水稲比較試験の成果」など。
45	Y79	2	農村生活誌第7(会津・新屋敷新田村)	昭和22年	1947年	福島県新鶴村新屋敷新田帰郷後の山口自身の生活や、講演・講義の原稿、思索・葛藤の記録(昭和22年6月28日～9月23日)。「郷家退去ノ準備」、「退郷ノ決意」、「農村文化の検討」、「再就職挨拶」、「女学生ノ郷土研究」など。
46	Y80	2	農村生活誌第6(会津・新屋敷新田村)	昭和22年	1947年	福島県新鶴村新屋敷新田帰郷後の山口自身の生活や、講演・講義の原稿、思索・葛藤の記録(昭和22年4月18日～11月22日)。「1年ノ回顧と農村社会学建設ノ苦勞」、「家族労働ノ意義」、「記録セラレザル生活」など。
47	Y81	2	農村生活誌第5(会津・新屋敷新田村)	昭和22年	1947年	福島県新鶴村新屋敷新田帰郷後の山口自身の生活や、講演・講義の原稿、思索・葛藤の記録(昭和22年2月27日～5月25日)。「春近シ」、「農民ノ幼稚ナ頭腦ヲ頭腦ト選出」、「村議会議員ノ選出」、「農村社会学ノ研究項目」、「青年指導ノ反省」など。
48	Y82	2	農村生活誌第4(会津・新屋敷新田村)	昭和22年	1947年	福島県新鶴村新屋敷新田帰郷後の山口自身の生活や、講演・講義の原稿、思索・葛藤の記録(昭和22年1月3日～2月25日)。「部落新年宴会」、「農村生活誌採集者ノ悩ミ」、「新鶴村農民協同組合ノ成立」、「村づくりの話」など。
49	Y83	2	農村生活誌第3(会津・新屋敷新田村)	昭和21年	1946年	福島県新鶴村新屋敷新田帰郷後の山口自身の生活や、講演・講義の原稿、思索・葛藤の記録(昭和21年10月28日～22年1月2日)。「警梯ノ初雪」、「家ヲ継グ」、「農地委員推薦」、「青年ノ政治運動」、「家ノ崩壊」など。
50	Y76	2	農村生活誌第2(会津・新屋敷新田村)	昭和21年	1946年	福島県新鶴村新屋敷新田帰郷後の山口自身の生活記録(昭和21年8月5日～10月27日)。「乾草」、「ヨヒビチ」、「旧家ノ崩壊」、「盆踊」、「人參栽培」、「サツマイモ供出」など、自家のことや農作業、年中行事などについて。
52	-	-	会津・新屋敷新田肝煎文書目録	昭和21年	1946年	新鶴村新屋敷新田の肝煎であった山口家に伝わった古文書の日録。1番から764番までの整理番号がつけられている。「昭和21年7月23日ヨリ整理」と表紙に記載がある。
53	所在未確認		恵日寺を中心とせる本寺(磯部節子)	昭和23年	1948年	
54	Y1469	31	柳田・田中館先生訪問	昭和24年	1949年	柳田国男・田中館秀三を訪問した際の記録(昭和24年7月14～17日)。「開拓と地名」『寄寓者の採録』『東北地方の経済地理研究』などの出版交渉のいきさつなど。
55	Y9	1	大沼・南会津民俗資料	昭和24年	1949年	最初の頁に「昭和24.4.20 コウ逝去」の墨書きあり。福島県金山町玉梨、昭和村中向・喰丸(昭和24年7月28日)、南会津町針生(昭和24年7月30日)、磐梯町大寺日曹株式会社(昭和24年8月9日)、恵日寺(昭和24年8月3日)などの調査記録。
56	所在未確認		会津恵日寺調査記録	昭和24年	1949年	

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年 代 (和暦)	年 代 (西暦)	主 な 内 容
57	Y10	1	南会津郡富田村 服飾調査	昭和25年	1950年	福島県富田村の衣生活に関する調査記録(昭和25年2月)。晴着や仕事着、裁縫、織物、被り物、履物、髪型、雨除けや日除けの道具などがスケッチとともに記されている。生徒による調査記録か。
58	Y11	1	河沼郡金上村樋口分間取資料、北会津郡東山村慶山・天寧	昭和25年	1950年	福島県金上村樋口分(昭和25年2月4日)、広瀬村青木(昭和25年2月5日)、東山村慶山(昭和25年7月17日)、天寧村(昭和25年7月14日)の調査記録。
59	Y12	1	羽黒修験道集落・手向調査	昭和25年	1950年	山形県手向村(昭和25年6月18～19日)、福島県関柴村(昭和25年8月15日)などの調査記録。
60	Y13	1	南会津松枝岐及只見調査	昭和25年	1950年	福島県大桃村(昭和25年7月22日)、松枝岐村(昭和25年7月25日)、朝日村、黒谷村などの調査記録。
61	所在未確認		恵日寺本寺村調査(古川八重子外四名)	昭和25年	1950年	
62	Y14	1	会津玄如節研究・風土色調査(川西・駒形)	昭和26年	1951年	福島県会津地方の民謡・玄如節についての山内警水への聞き取り調査(昭和26年2月10日)、川西・駒形風土色調査(昭和26年2月17～18日)、北会津郡小田村サイノカミ調査(昭和26年2月20日)などの調査記録。
63	Y1470	31	柳田・田中館先生訪問	昭和25年	1950年	柳田国男・田中館秀三を訪問した際の記録(昭和25年10月8日～)。「昭和八年十一月廿一・廿二日田中館秀三先生御教示事項」と題した原稿用紙貼付あり。
64	Y15	1	五十嵐富安翁の話 寺尾博士の農村問題高田町第3回弁論大会講評・山上八郎氏武具の話	昭和24年	1949年	五十嵐富安翁の話(昭和24年8月21日)・寺尾博士の話(昭和24年9月4～5日)、高田弁論大会の講評・山上八郎氏武具の話(昭和25年5月30日)などのメモ。
65	Y1471	31	(柳田・田中館先生の御教示他)	昭和24年	1949年	柳田国男・田中館秀三を訪問した際の記録(昭和24年9月24～25日)。第一回日本民俗学会年会(昭和24年9月24日)におけるハカマの問題について、山口による折口信夫への質問に対する柳田国男の答へのメモなど。「第一回日本民俗学会年会」における公開講演会と研究発表会のプログラムが挟んである。
66	Y16	1	大沼郡本名村三条民俗誌	昭和24年	1949年	会津女子高校の生徒4名とともに行った、福島県本名村三条の調査記録(昭和24年7月27～28日)。
67	Y157	4	会津恵日寺調査録第1	昭和26年	1951年	福島県磐梯町の恵日寺に関する歴史や資料翻刻など(昭和26年8月3～8日)。福島県教育委員会共同調査・石田茂作氏指導。
68	Y158	4	会津恵日寺調査録第2	昭和26年	1951年	福島県磐梯町の恵日寺に関する歴史や資料翻刻など(昭和26年8月9日)。福島県教育委員会共同調査・石田茂作氏指導。
69	Y1474	31	熊倉調査・猪苗代見祿部落	昭和26年	1951年	福島県喜多方市の熊倉遺跡発掘調査について、二瓶清氏の話(昭和26年8月11～13日、9月22日)のメモ。福島県猪苗代町見祿(昭和26年10月6日、10月28日)の調査記録。
70	Y1475	31	三陸地方の津浪による集落移動の研究調査録	昭和26年	1951年	岩手県鶴住居村両石、唐丹村本郷、綾里村(昭和26年8月16～23日)の調査記録。調査期間中に家族に宛てた葉書など4枚貼付あり。
71	Y1476	31	会津地方生活誌 I	昭和22年	1947年	福島県長瀬川流域の調査(昭和22年9月21日)、沼沢調査(昭和23年8月5～6日)、会津の衣服調査(昭和23年8月30日)、柳田国男・田中館秀三の話のメモ(昭和23年9月26日)、東山村調査(昭和23年11月6日)、福島県金上村樋口分調査、「結婚カンパニ化ノ問題」(昭和24年4月12日)などの調査記録及びメモ。妻・コウウの死と再婚についての記述も。
72	Y1477	31	会津東山村二幣地民俗誌	昭和23年	1948年	福島県東山村二幣地の調査記録(昭和23年11月13～14日)。民家、間取り、民具等のスケッチ多数。東山村大東子、大戸村などの調査記録も含む。
73	Y1478	31	耶麻郡奥川村弥平四郎	昭和24年	1949年	福島県奥川村(昭和24年11月11～13日)、弥平四郎(昭和24年11月12日)、山都町藤巻(昭和24年11月13日)の調査記録。
74	Y1479	31	二幣地→石筵調査録	昭和26年	1951年	福島県東山村一ノ渡戸・二幣地(昭和26年7月22～23日)、熱海町石筵(昭和26年7月24～25日)、福良村の調査記録。

ノ 一 番 号	整 理 番 号	旧 箱 番 号	標 題	年 代 (和 暦)	年 代 (西 暦)	主 な 内 容
75	Y1472	31	採訪録	昭和27年	1952年	柳田先生のお話(昭和27年4月27日)のメモ。築田家文書(昭和27年5月17日)、福島県会津坂下町塔寺、福島県門田村小田、福島県本名村三条(昭和27年7月30日)、福島県松枝岐村(昭和27年8月6日)、会津田島の祇園祭(昭和27年8月9日)などの調査記録。
76	Y1480	31	南会津・田子倉調査録Ⅰ	昭和28年	1953年	ダム開発に伴い水没した福島県只見町田子倉集落の調査記録(昭和28年8月4～7日)。調査内容や組織、日程等が記された「奥会津田子倉生活調査要項」や、只見川のダム開発関係新聞記事のスクラップも。
77	Y1481	31	南会津・田子倉調査録Ⅱ	昭和28年	1953年	ダム開発に伴い水没した福島県只見町田子倉集落の調査記録(昭和28年8月4～7日)。只見川のダム開発関係新聞記事のスクラップも。
78	Y1482	31	田島村田出宇賀神社の祇園祭に於ける御党屋制度	昭和27年	1952年	福島県会津田島の祇園祭における党屋制度の調査(昭和27年8月9日)、福島県若松市の調査(昭和28年1月9日)、福島県冬木沢村八葉寺(昭和28年1月10日)、福島県若苗代町中ノ沢・達沢(昭和28年7月30～31日)、福島県宮下村(昭和28年8月26日)、岩手県二戸郡北福岡(昭和28年9月4～6日)、福島県松枝岐村(昭和28年11月9日)、福島県熱塩村(昭和28年11月14日)の調査記録なども含まれる。
79	Y1483	31	新潟県東蒲原郡室谷部落調査	昭和27年	1952年	新潟県東蒲原郡室谷村(昭和27年8月14～17日)の調査記録。後半には昭和29年7月の尾瀬ヶ原の調査記録と、昭和36年7月の津川町民俗総合調査打合せの記録も。
80	Y1484	31	昭和29年度岩手・青森調査Ⅰ	昭和29年	1954年	岩手県北上市水押(昭和29年7月29日)、岩手県石鳥谷町北寺林・岩手県福岡町(昭和29年7月31日)、青森県八戸(昭和29年8月2日)などの調査記録。
81	Y1485	31	昭和29年度岩手・青森調査Ⅱ	昭和29年	1954年	青森県大三沢町鹿中・二川目(昭和29年8月3～4日)、岩手県宇部村小袖・久喜(昭和29年8月5～7日)、岩手県普代村太田名部(昭和29年8月7日)、岩手県田野畑村羅賀・平井賀(昭和29年8月7～9日)などの調査記録。
82	Y1486	31	昭和29年度岩手・青森・福島調査Ⅲ	昭和29年	1954年	岩手県田野畑村羅賀・平井賀(昭和29年8月8～9日)、岩手県重茂村鶴磯・荒巻(昭和29年8月9～11日)、福島県滝根町広瀬(昭和29年8月12～13日)などの調査記録。調査期間中に妻・姪に宛てた葉書14枚の貼付あり。
83	所在未確認		会津地方古墳調査録(青津・一箕・大塚・田村山古墳)			
84	Y1487	31	陸中江刺郡地方民俗調査録(玉里・米里・伊手村村落機構調査)東北開発研究会委託調査	昭和30年	1955年	昭和31年2月の東北開発研究会での報告「江刺地方の開発と農村の発達機構」に関する調査記録(昭和30年7月27日～8月3日)。岩手県江刺郡玉里村・米里村・伊手村の調査地概要、集落の家並みのスケッチ、村組や親族集団、講集団、備荒食、民家の間取り、共同労働、年中行事など。
85	Y1488	31	村落共同体の基礎理論データ 結・共同田植の実態調査(福島県河沼郡若宮村蛭川)	昭和29年	1954年	『東北農業』所収論文「村落共同体の基礎理論-会津蛭川部落の共同田植の理論解明」執筆に関する若宮村蛭川の調査記録(昭和29年12月10日～)。蛭川地区の共同田植えに関する新聞記事の切抜きあり。
86	Y85	2	陸中江刺町及下北半島尻屋調査録(第1冊目)	昭和30年	1955年	岩手県江刺町岩明(昭和30年8月3日)・伊手(昭和30年8月4日)、岩手県北上市黒沢尻(昭和30年8月6日)、青森県東通村尻屋(昭和30年8月8日・10日)、里親などの調査記録。
87	Y86	2	尻屋調査録ノート二冊目	昭和30年	1955年	青森県尻屋調査(昭和30年8月12～14日)の記録。尻屋協同組合定款、名寄帳、戸籍などの記録の写し多数。調査後の記録「大間町石川旅館ノ二階ノ部屋ニテ」(昭和30年8月13日)や調査地の景観スケッチも。
88	Y1489	31	Rural Sociology 採訪録	昭和26年	1951年	福島県本宮町瀬戸内(昭和26年10月2日)、三条山言葉(昭和26年11月18日)、岩瀬湯本二岐調査(昭和26年11月23日)などの調査記録。
89	Y1490	31	東北地方農村生活研究資料	昭和27年	1952年	東北地方農村生活研究資料、高野村婚礼費用実態調査(昭和27年12月11日)、会津風俗帳写、御山村年中行事(昭和28年1月24日)、青津の市神(昭和28年7月8日)、神指村西城戸結調査(昭和29年1月14日)などの調査記録。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年 代 (和暦)	年 代 (西暦)	主 な 内 容
90	Y1491	31	大塩・松原・早稲沢調査	昭和30年	1955年	会津女子高校郷土研究部の学生を引率して行った福島県北塩原村大塩、松原、早稲沢調査の記録（昭和30年7月22～25日）。引率者は山口と依田信義、参加生徒は13名。
91	Y1473	31	学会旅行の記録	昭和29年	1954年	広島～尾道見学（昭和29年11月1日）、柳田先生の話（昭和30年5月3日）のメモ、湘南～静岡見学（昭和30年5月4～5日）、立岩扇氏の地学の話（昭和30年5月28日）、川桁断崖層調査（昭和30年7月3日）などの記録。
92	Y1492	31	集落地理学一福島県教育委員会教員仮免認定講習講義下稿	昭和27年	1952年	福島県若松市（昭和27年8月1～4日）と郡山市（昭和27年8月11～14日）のふたつの会場で行われた福島県教育委員会教員仮免認定講習会の記録。武藤イク・間部英子による「人文地理学」の講義ノート。
93	Y1493	31	論文下稿（小田垣住宅より中川原町研究所へ移る）	昭和27年	1952年	「北地平原開発の形態」、「結婚簡略化の問題」、「home project の問題」、「嫁姑論」、「女の農業」、「住居の問題」、「天明度の凶作による津軽大秋の死絶と集落の再興」、「共同体的漁村の形態変化－陸中宇部村小軸」、「名子制度と縁族集団よりみたり漁村の形態－陸中重茂村鶴磯・荒巻」の各論文の下書き原稿（昭和27年11月16日～昭和29年9月10日）。
94	Y159	4	農村随想録 黒沢尻一江刺稲瀬一岩谷堂～会津新鶴 離郷～会津新鶴	昭和18年	1943年	「陸中の地ノ神・内神・氏神・オボツナ様資料」、「東北文化の推移と重積」、「おふくでん考」、「東北地方の結について」、「磐城北神谷記序」などの原稿下書き（昭和18年11月24日～25年4月3日）。山口が寄稿した新聞記事の切抜きも多数貼付されている。
95	Y160	4	会津民俗誌	昭和23年	1948年	「木地屋の生活」、「奥会津三条民俗誌」、「会津民俗誌東山村二幣地の巻」、「会津民俗誌第1巻序にかえて」、「ユイ（労働力相互協力）の基礎的理論」などの原稿下書き（昭和23年1月）。
96	Y1494	31	福島県石城郡の地名資料	昭和23年	1948年	石城郡の地名資料、考古学講座（二瓶清氏・昭和23年7月24日）、家庭医学講座（吉田重弥氏・昭和23年7月27～29日）、性病の問題（明石博士・昭和23年9月28日）、医学の問題（大久保博士・昭和23年9月29日）
97	Y1495	31	学校教育研究関係ノート	昭和24年	1949年	仙台で行われたIFEL（占領期教育指導者講習）研究協議会でのペッカム教授の講義記録（昭和24年4月2～4日）など。
98	Y1496	31	会津新鶴村誌編集資料手控・原稿整理割当Ⅳ	昭和33年	1958年	『奥州会津新鶴村誌』編纂のための調査ノート（昭和33年8月27日～）。村誌の目次構成や編集中間報告のメモ、印刷製本の見積書、巻末年表の原稿など。
99	Y1497	31	会津新鶴村誌編集資料Ⅱ	昭和33年	1958年	『奥州会津新鶴村誌』編纂のための調査ノート（昭和33年7月24日～8月31日）。旧新鶴村の村落毎の自然環境や地勢、寺社や史跡、文化財、関連資料などのメモ。集落の家屋配置や民家の間取図、出土遺物や石仏等のスケッチなど。
100	Y1498	31	会津新鶴村誌編集資料手控Ⅲ	昭和33年	1958年	『奥州会津新鶴村誌』編纂のための調査ノート（昭和33年8月15日～）。旧新鶴村の村落毎の歴史や自然環境、水害や堤防の工事・決壊などに関する記録、集落別の耕地面積、各種統計など。
101	Y1499	31	会津新鶴村誌編集資料手控Ⅰ	昭和33年	1958年	『奥州会津新鶴村誌』編纂のための調査ノート（昭和33年6月28日～8月31日）。旧新鶴村の村落毎の自然環境や地勢、寺社や史跡、文化財、関連資料などのメモ。集落単位の人口数の推移や方言一覧など。
102	Y1503	31	福島県無形文化財申請審査記録Ⅱ	昭和33年	1958年	古寺山自奉楽、濫觴神楽、ハツ田内七福神踊など福島県内の50の民俗芸能等に関する文化財指定に向けた調査記録（昭和33年1月2日～）。
103	Y1500	31	[エム・エーデル氏民家調査案内録（昭和34年6月12日～8月3日）・大場磐雄考古美術調査案内録（昭和34年8月4日）・西白河・古祭具土器（昭和34年6月12日）]	昭和34年	1959年	エム・エーデル氏民家調査案内録（昭和34年6月12日～8月3日）・大場磐雄考古美術調査案内録（昭和34年8月4日）・西白河・古祭具土器（昭和34年6月12日）。
104	Y1501	31	講演要旨	昭和28年	1953年	『生徒指導手帳』をノートとして利用。冒頭に「会津史大要」まとめ。山口が行った複数の講演会の要旨。「若松市公民館青年講座 郷土の歴史」（昭和28年12月15日）から、「勝常村農協青年会総会 青年活動の将来」（昭和31年4月2日）までの講演記録が記されている。

ノ 一 番 号	整 理 番 号	旧 箱 番 号	標 題	年 代 (和 暦)	年 代 (西 暦)	主 な 内 容
105	Y1502	31	講演要旨	昭和30年	1955年	教育図書株式会社 広告入り手帳。山口が行った複数の講演会の要旨。「農民小説の一構想」(昭和30年6月17日)、「東北民俗誌出版記念講演会 郷土研究の意図」(昭和30年6月25日)から、「喜多市方市関柴町青年会婦人会講演 習俗と新生活運動 - 迷信打破の問題」(昭和34年1月12日)までの講演記録。その他、「農村生活改善の基礎的問題」(昭和35年1月25日)の原稿下書き及び「会津史大要」(年表等の備忘録か)のまとめ。
106	Y1504	31	福島県無形文化財申請審査記録 I	昭和32年	1957年	福島県内の無形民俗文化財77件について、それぞれ1ページ程度に演目・次第・由来・歌詞・文獻などの要点を書き出した。内容は民俗芸能が多く、福島県内各地の三匹獅子舞・十二神楽・田植踊・宝財踊などのほか、福島県福島市金沢のハヤマゴもみりなどの項目もみられる。
107	Y1505	31	福島県文化財調査録	昭和32年	1957年	日本書院の広告入りノート。表紙には「福島県文化財 III」とある。福島県内の遺跡や民俗行事の調査ノート。巻頭の自筆の目次には38項目の調査対象行事等が挙げられている。「高寺遺跡調査」(昭和32年7月14日)、「三春ノ張子」(昭和32年7月23~24日)から、「東和村木幡・幡祭」(昭和33年12月27~28日)、「会津漆器記録調査」(昭和34年1月6日)まで多岐にわたり、詳細な調査記録や聞き書きが記されている。
108	Y1506	31	福島県無形文化財調査録 IV	昭和33年	1958年	福島県内の民俗行事等の調査記録。巻頭の自筆の目次には21項目の調査対象が挙げられている。「田島祇園祭」(昭和33年7月19日)調査記録、「勿来・御宝殿熊野神社の田楽」(研究文献要約)、「二本松市鈴石・七福神田植踊」(昭和34年4月9日)から「矢吹町三十三観音ト旧陣屋跡(民家)」、「長沼町杵衝神社祭礼獅子舞」(昭和34年5月25日)まで多岐にわたり、詳細な調査記録や聞き書きが記されている。
109	Y1510	31	会津キリシタン史資料	昭和26年	1951年	キリシタン関連の史料・研究文献等の抜粋及び山口の考察等が記されている。「川東組 切苧類改帳」(享保四年五月、五十嵐竹雄氏蔵)、「家世実記」(巻ノ三、寛永十七年五月二日ほか)等、会津の文書史料からキリシタン関係箇所について抜き書きしている。後半部には自作の関連年表あり。
110	Y1511	31	福島県無形文化財 神楽獅子舞記録 VII	昭和34年	1959年	福島県内の神楽・獅子舞についての所在調査・情報まとめ用ノート。巻頭の自筆の目次には「田村郡船引町船引(大鍋屋二匹獅子)」、「岩瀬郡長沼町杵衝」、「平・飯野町大字中山字諏訪下(三匹獅子舞ニツイテイル)」など23項目の獅子舞と各頁番号が振られているが、該当頁はタイトルのみ(あるいは白紙)で、未記入のまま終わっている。
111	Y1512	31	福島県無形文化財 獅子舞記録(2)	昭和34年	1959年	福島県内の獅子舞についての所在調査・情報まとめ用ノート。巻頭の自筆の目次には1頁に1件を記載する形で「1 伊達・川俣・小細木三匹獅子舞」、「2 安達・東和・木幡」3石川・玉川・竜ヶ崎「52平・上平窪薬師十二神社」など52項目の獅子舞と各頁番号が振られているが、該当頁は37項目のうち20件弱に神社名・実施日と練習日程・演目・次第等の詳細な記載があるのみで、多くは未記入のまま終わっている。
112	Y1513	31	福島県無形文化財 獅子舞記録(1)	昭和34年	1959年	福島県内の獅子舞についての所在調査・情報まとめ用ノート。巻頭の自筆の目次には「1」1、「54平・平窪・中平窪」1、「88双葉・浪江町沢上獅子舞(田植踊ヲ含ム)」など37項目の獅子舞と各頁番号が振られているが、該当頁は37項目のうち7件程度に神社名・実施日と練習日程・演目・次第等の詳細な記載があるのみで、多くは未記入のまま終わっている。
113	Y1507	31	福島県無形文化財調査録 V	昭和34年	1959年	福島県内の民俗芸能の調査ノート。巻頭の自筆の目次には21項目の民俗芸能等が挙げられている。「田村郡船引町男女獅子舞(第2回調査)」(昭和34年7月11日)、「田村郡小野町大倉九匹獅子舞(第2回調査)」(昭和34年7月12日)から、「浪江町津島芸能大会 田植踊、長獅子、獅子舞その他」(昭和35年2月13日)、「磐城釜戸諏訪神社奴大祭の奴踊」(昭和35年5月7日)まで、各芸能の次第・由来・歌詞・動きなどの詳細な調査記録や聞き書きが記されている。調査地で入手した由来書のプリントや連絡文書なども貼付。
114	Y1514	31	松枝岐・田山村調査録	昭和10年	1935年	巻頭に松枝岐で宿泊したとみられる「長蔵小屋」のスタンプ(10.7.28の日付)あり。26の調査項目(1.土性図・地質図・古地図、2.集落・土地利用・交通・政治景観等)を印刷した短冊が挟まっている。「南会津郡大川村字大桃」(昭和10年7月24日)、「松枝岐村調査」(昭和10年7月25日)〜、「岩手県二戸郡「田山村調査」(昭和10年8月17日)における集落図・方言・聞き書きなどの調査記録。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代 (和暦)	年代 (西暦)	主 な 内 容
115	Y1508	31	福島県無形文化財調査録VI	昭和35年	1960年	各地の民俗芸能大会や福島県内の民俗行事等の記録類。巻頭の自筆の目次には21項目が挙げられている。「さんじもさ踊」の文献要約、「盛岡市第2回東北地方民俗芸能大会」(昭和35年8月28日)から「金沢黒沼の十二神楽」(昭和36年1月4日)、「四ツ倉史学館、じゃんがら念仏太鼓」(昭和36年1月28日)まで多岐にわたり、詳細な調査記録や聞き書きが記されている。調査地で入手した由来書のプリントや連絡文書なども貼付。
116	Y1509	31	福島県無形文化財調査録VII	昭和36年	1961年	各地の民俗芸能大会や福島県内の民俗行事等の記録類。巻頭の自筆の目次には18項目が挙げられている。「長折三匹獅子舞」(昭和36年2月5日)、「サカラ文献整理」(文献まとめ、昭和36年2月6日)から「寅年の資料」(資料まとめ、昭和36年12月6日)、「会津本郷焼調査」(昭和36年12月19日～20日)まで多岐にわたる、詳細な調査記録や聞き書きが記されている。調査地で入手した由来書のプリントや連絡文書なども貼付。
117	Y1515	31	史迹・美術資料ノート	昭和15年	1940年	昭和15年版の川勝政太郎編『史迹・美術資料ノート』を使用。「岩手県黒沢尻町黒沢尻中学校 山口弥一郎」の記名あり。ノートに「郷土生活研究採集手帖 要項 (柳田国男)」、「沿海地方採集手帖要項 (柳田国男)」、「食習採集手帖 民間伝承の会編昭和十六年版」の調査項目をほぼ全て筆写。巻末に「農家の生活調査実習要項(昭和18年12月24日) 於胆沢・六原 岩手県青年学校教員養成所第二学年」の表題の調査項目(謄写版印刷)が貼付。
118	Y1516	31	文献整理	昭和20年	1945年	横帳型のアドレス帳を使用。ノート上部にタグの切欠き(イロハ順)があり、文献検索用に転用している。「総(人文地理総説)」「東(東北地方概説)」「福(福島県)」などのインデックスを付し、各頁に著者名と論文・著書の表題を記している。「民(民俗学関係)」の項目には「柳田国男著書目録」を作成している。
119	Y1517	31	東北地方の経済地理研究論文下稿 (I 胆沢の散村・II マタギ集落・III 東北の市場) 於黒沢尻	昭和15年	1940年	論文の下書きを記したノート。「陸中胆沢畷地に於ける散居と其の生活(東北地方の散村に対する一考察 昭和15年12月30日、2600年記念論文)」、「東北地方に於けるマタギ集落の機構と其の変遷(昭和16年5月4日、結婚記念論文)」、「東北地方に於ける市場圏、市場群及び市場集落の発達(田中館秀三との共著、昭和16年9月24日起稿、妻の懐妊記念論文)」
120	Y1518	31	東北地方の経済地理研究論文下稿	昭和15年	1940年	論文の下書きを記したノート。巻頭に目次あり。「緒言」/1.開拓/2.産業の特殊性/3.水運ト鉄道交通/4.人口構成ト人口移動/5.集落ノ形態ト機構/6.市場/7.凶作ト津波/8.東北地方ノ特殊性。以下、巻末までおおよその構成に沿って原稿が書かれている。
121	Y1519	31	東北地方の経済地理研究論文下稿 於岩手・黒沢尻	昭和16年	1941年	論文の下書きを記したノート。各表題は「山村に於ける人口置換現象」、「東北地方ニ於ケル人口問題ノ特殊性ト人口問題東北地方協議会」(昭和16年7月4日稿)、「焼畑耕作ニ対スル反省ト高原地開発」(昭和16年10月18日)、「陸中八重畑村名子制度の現状」、「北上山地北部の凶作に対する若干の考察」(昭和17年2月1～10日稿)、「北の話 解題」(昭和17年2月23日)、「東北地方の集落発達に関する若干の考察」(昭和17年3月26日～)。それぞれ完成に近い論文原稿が書かれている。
122	Y1520	31	東北地方の経済地理研究論文下稿 (地名研究を中心として) 於岩手・黒沢尻	昭和17年	1942年	論文や新聞掲載文の下書きを記したノート。各表題は「東北地方に於ける集落興廃の経済地理的研究」(田中館秀三との共著、昭和17年5月25日稿)、「北上山地の屋号と集落」(昭和17年5月30日～6月1日)、「『さめ』の生活と地名発達」(昭和17年11月21日)、「北上山地の屋号と集落 補遺」、「東北地方の沿海地研究(田中館秀三氏序)」(昭和17年12月21日)、「繫・荷越その他 古い交通関係の地名」(昭和18年2月8～10日)、「尾瀬両麓の曲家」(昭和18年2月20～21日)、「東北地方に於ける集落の興廃の経済地理的研究」(田中館秀三との共著、昭和18年5月15日)、「地名よりみたる開墾集落の発達」(昭和18年5月22～23日)、「体験と炎書」(昭和18年10月20日)、「地名と開拓前の自然景観」(昭和18年11月7～17日)。それぞれ完成に近い論文原稿が書かれている。
123	Y1521	31	東北地方の経済地理研究論文下稿 津波と村と家 その他 於岩手・黒沢尻	昭和18年	1943年	論文の下書きを記したノート。各表題は「明治29年の津波の災害による家系の再興」(昭和18年1月10～17日)、「三陸の旅(序)」(昭和18年1月25日)、「津波後の村と家の再興 - 陸中重茂」(昭和18年1月27～31日)、「天門度に於ける大秋(たやき)の死絶と再興」(昭和18年10月2日)、「和賀の畷状地開拓」(昭和20年10月19日～11月25日)、「散村の屋敷と耕地」(昭和20年10月26日～11月10日)。それぞれ完成に近い論文原稿が書かれている。

ノット番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 内 容
124	Y1522	31	論文下稿一津波常習地の地理研究	昭和26年	1951年	論文の下書きを記したノート。各表題は「津波常習地に於ける集落の地理学的研究」(昭和26年9月24日～)、「農家の住い改善への道」(昭和26年10月15日)、「農業の進歩を阻む世話譚りの内訳」(昭和26年10月17日)、「エジコと育見」(昭和26年11月13日)、「磐城の郷土研究回顧 高木誠一氏に呈上」(昭和26年3月28日)、「大頭小頭とイナバツ 会津軍日寺の研究第三」(昭和27年5月11日)、「津浪で漁村を移す問題」(昭和27年5月15日、6月5日付の掲載新聞の切抜きも貼付)、「イナバツ・チンキマイ・カスミ等」(昭和27年6月8日)、「東蒲原空谷の若連中」(昭和27年9月30日、11月3日付の掲載新聞の切抜きも貼付)、「郷土研究と民俗学」(昭和27年10月26日)、講演要旨「東北地方に於ける高原開発の諸問題」(昭和27年11月8日)、「学校教育の責任と教育の所在」(昭和28年11月3日)。それぞれ完成に近い論文原稿が書かれている。
125	Y1523	31	会津盆地における河川改修の効果についての実態調査 建設省北陸地方建設局阿賀川工事事務所委託調査Ⅰ	昭和35年	1960年	山口が研究所として受けた業務委託記録と調査記録。「昭和35年4月22日受諾、5月12日調査開始～5月21日」とあり。表紙裏に阿賀川工事事務所の関係者6名の名列貼付。打合せ記録。現地調査時のメモと景観のスケッチ。水位・地すべり・会津洪水災害年表・家世実記等の歴史資料や公的な報告書類から水害記録等の抜き書き。流域の手書き地図。
126	Y1524	31	会津盆地における河川改修の効果についての実態調査記録 阿賀川改修工事事務所委託調査Ⅱ	昭和35年	1960年	山口が研究所として受けた業務委託記録と調査記録(昭和35年5月22日～6月3日)。文献調査により、過去の最大雨量や最大水位などのデータの多数の工事記録から抜き書き。流域のボーリング調査記録の山口自身の手書きなど。
127	Y1525	31	会津盆地における河川改修の効果についての実態調査記録 阿賀川改修工事事務所委託調査Ⅲ	昭和35年	1960年	山口が研究所として受けた業務委託記録と調査記録(昭和35年6月4日～)。文献調査により、過去の多数の工事記録等から流域の「農業用溜池一覽表」「灌漑調査」等のデータを抜き書き。後半部は「北会津市長 長嶋氏談」(昭和35年6月22日調査)、「喜多方市役所農政課」(昭和35年7月2日調査)などの聞き書き多数あり。洪水範囲の地図のスケッチなどもあり。巻末に山口自身による調査報告書「会津盆地における河川改修とその総合効果」の構成案(第1章～第6章まで)が記されている。
128	Y87	2	福島県史民俗誌資料調査録Ⅰ	昭和37年	1962年	『福島県史』編さん時の調査記録。福島県郡山市横塚の白曳さき祭(熊野神社)調査記録(昭和37年11月14日)、福島県只見町民俗調査打合せ(昭和37年11月15日)、「会津冬木沢空也念仏踊調査記録」(昭和37年11月16日)、福島県只見町石伏調査記録(昭和37年11月19～22日)、福島県薄磯調査記録(昭和37年11月23日)、福島県豊間村・入遠野調査記録(昭和37年11月24日)、福島県大東村調査記録(昭和37年11月26～29日)。いずれも民俗調査での聞き書きメモ。用具・間取・集落地図などのスケッチも多数含まれている。
129	Y88	2	福島県史民俗誌資料調査録Ⅱ	昭和37年	1962年	『福島県史』編さん時の調査記録。福島県安達郡東和町木幡の民俗調査記録(幡祭り・ハヤマ祭りのほか、衣食住・年中行事等。昭和37年11月29日～12月2日)。福島県岩代町広瀬の御田植祭調査記録(昭和38年1月17～18日)。いずれも民俗調査での聞き書きメモ。用具・間取・集落地図などのスケッチも多数。後半に「第13回福島県民俗芸能大会」(昭和38年11月17日、福島県二本松市)記録やプログラム等貼付。大会当日の調査記録や、出演団体の紹介記事の切抜き、担当者の名刺等貼付。
130	Y89	2	福島県文化財調査録(無形文化財・民俗資料)	昭和37年	1962年	文化財指定に伴う福島県文化財専門委員としての調査記録。聞き書きや道具類のスケッチ等多数記載あり。福島県三島町・福島県金山町での会津蠟燭製作過程の調査記録(昭和37年1月22日)。会津本郷焼の調査記録(ニシシ録等、昭和37年1月24～26日)。福島県棚倉町郡々古別神社の御田植祭調査記録(昭和37年2月10～11日)。福島県磐梯町本寺・舟引祭(みくに祭)調査記録(昭和37年2月15日)。白河天道念仏調査記録(昭和37年4月26～27日)。中釜戸奴行道調査記録(昭和37年4月30日～5月1日)。福島県只見町早乙女踊り調査記録(昭和37年5月7～8日)。会津盆踊調査記録(昭和37年8月17日)。「会津漆器製作過程調査」(昭和37年9月22日)。その他、福島県民俗芸能大会や民俗資料研究会等の資料や原稿案、名刺類を貼付。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
131	Y90	2	福島県史民俗編Ⅱ資料補遺調査録	昭和41年	1966年	冒頭に「労働慣行調査項目」及び調査票のコピーと住所録あり。『福島県史』調査のため労働・贈与・社交についての調査票を各所に送付したものか。以後は同テーマでの山口自身の現地調査記録。福島県四倉町長友(昭和41年3月23日)、福島県浪江町南津島(昭和41年3月24日)、福島県信夫村大森・高畑(昭和41年3月25日)、福島県会津坂下町朝立(昭和41年3月27日)、「山口キヨ母83才、テープ録音あり」と記載、山口弥一郎旧蔵資料内に当該リールテープあり。出身地である福島県新鶴村新屋敷での「民芸品(主に食器類)」調査記録(昭和41年5月3日)を貼付。巻末に協力者の来信を貼付。
132A	Y91	2	福島県史民俗編Ⅱ 巻資料蒐集	昭和40年	1965年	『福島県史』編さん時の調査記録。冒頭に手書きの福島県民俗調査要項の「住居」「生業」の項等の記載あり。以下、各地での民家や生業の調査記録。福島県郡山市月形村舟津、福島県埴町(昭和40年7月15日)。福島県石川町(昭和40年7月17日)。福島県相馬市飯岡家旧蔵の櫛笄コレクションの調査記録とスケッチ(昭和40年7月18日)。福島県北会津村石原の民具名称(昭和40年7月27日)。その他、福島県小高町での民家間取図のスケッチ貼付。ノートに挟み込みで福島県内各地(7戸)の間取図を清書した小学生用算数ノートが添付。
132B	Y92	2	福島県民俗資料緊急調査Ⅰ	昭和38年	1963年	表紙に「大沼郡昭和村大芦、西会津町弥平四郎・中ノ沢」とあり。冒頭に「民俗資料緊急調査手引」貼付。ノート冒頭に福島県安積郡逢瀬村の民家の間取図と社会組織等の調査記録等(昭和38年7月8日)やそれ以降は福島県昭和村大芦での民具・民家・衣食住等の調査記録及び、福島県昭和村西原早乙女踊や福島県昭和村野尻地区の舞台の調査記録・スケッチ等(昭和38年7月16～18日)。福島県西会津町弥平四郎及び福島県西会津町高陽根字中沢での木地師・屋根葺き等職人の生業等の詳細な聞きとスケッチ(昭和38年7月20～22日)。巻末に自筆の福島県昭和村大芦集落見取図あり。
133	Y93	2	福島県民俗資料緊急調査Ⅱ	昭和38年	1963年	表紙に「会津高田町西勝、喜多方市入田付」とあり。聞き書きメモには「3、仕事と用具」等の記載があり、「民俗資料緊急調査手引」の項目にあわせて調査したとみられる。福島県会津高田町西勝(昭和38年7月27～28日)、及び福島県喜多方市入田付(昭和38年7月31日～8月2日)での詳細な聞き書きの記録。自筆の集落地図や神像・民具・民家間取等のスケッチを含む。巻末に周辺地図、調査計画表、協力者からの来信等貼付。
134	Y94	2	福島県民俗資料緊急調査Ⅲ	昭和38年	1963年	表紙に「猪苗代町八幡、会津坂下町青木」とあり。聞き書きメモには「④仕事着」「⑥毎日の食事」等の記載があり、「民俗資料緊急調査手引」の項目にあわせて調査したとみられる。冒頭に福島県猪苗代町八幡字内郷の詳細な集落地図。福島県猪苗代町八幡(昭和38年8月6～8日)、及び福島県会津坂下町青木(昭和38年8月11～12日)での詳細な聞き書きの記録。福島県会津坂下町青木での調査記録(青木本綿、藍栽培、オシメンメ様のお年取り、食物を中心とする年中行事などの詳細な記述あり)。
135	所在未確認		沖永良部島集落調査	昭和40年	1965年	
136	Y161	4	福島県新産業都市郡山地区民俗調査	昭和40年	1965年	福島県文化財専門委員としての調査記録。福島県須賀川市での「関下人形」聞き書き(昭和40年3月28日)。福島県郡山市田村町での獅子舞の聞き書き(昭和40年3月29日)。福島県郡山市安積永盛の「あばれ地蔵」「火伏せ祭り」「渡し舟 旧街道(笹川から守山まで)」ほかの聞き書き(昭和40年3月29日)。福島県郡山市富久山町・日和田町の「代々神楽」「高倉人形」等の聞き書き(昭和40年3月30日)。その他、「新安積地方小唄」「須賀川市阿武隈考古館資料目録」のパンフレット、周辺地図、文献コピー、関係者の名刺貼付。巻末に「須賀川市上塩田菅船神社 御法楽獅子舞記録」のガリ版印刷パンフレット貼付。
137	Y162	4	奥州会津北会津村調査録Ⅰ	昭和41年	1966年	表紙裏に「北会津村誌資料下調目録」(集落単位の手書きの資料一覧)あり。冒頭に「北会津村誌」の構成案(昭和41年5月13日脱稿とあり)と大般若の御札貼付。関係者の来信や名刺を含む。「第1回予備調査、主に写真撮影」(昭和41年10月16日)以後、昭和42年1月7日までの聞き書きや調査まとめを記す。オシメンメ様の調査記録、木習臼のスケッチ、福島県北会津村石原・遠藤一嘉宅間取り図(昭和25年頃までの旧間取り)、手書きの集落地図等あり。田村山古墳の実測図(ガリ版印刷)貼付。『中荒井組風俗帳』等文献の抜き書きなど。

ノ 一 番 号	整 理 番 号	旧 箱 番 号	標 題	年 代 (和 暦)	年 代 (西 暦)	主 な 内 容
138	Y163	4	奥州会津北会津村調査録Ⅱ	昭和42年	1967年	『北会津村誌』の調査記録。冒頭に「福島県編さん会議」の会議資料と大般若の御札、福島県北会津村両堂地区の不動尊御札貼付。福島県北会津村中荒井地区での聞き取り調査(話者：一条幸喜(明治31年生)、長野政吉(当時65才)ほか)。カラコネと伊勢参り、飯豊山おこもりの際の服装、古峰ヶ原講、年始万歳、コガイ万歳、オシメイサマなどについての記録。その他考古遺物や聞き取りなどのスケッチあり。手書きの集落地図を貼付。巻末に郷土誌類からの抜書きあり。区長名簿、調査員名簿、調査項目等のプリント類を貼付。
139	Y164	4	奥州会津北会津村調査録Ⅲ	昭和42年	1967年	『北会津村誌』の調査記録。冒頭に再調査に当たっての調査項目や疑問点等を記した自筆メモ及び自筆の「北会津村歴史年表抄」を貼付。中荒井の念仏踊り・大般若について聞き取りの聞き書き(話者：秋山只八(当時87才)。その他、二日町のバンモチ石について、小森家住宅の聞き取りについての聞き書き。中荒井湯殿山碑(元治2年4月吉日)の調査記録。ノート後半は村誌の章立ての順に記述内容を記したカード・短冊類を貼付。巻末に旧村時代の村長一覧(原稿用紙)や人口統計、情報提供の手紙等を貼付。
140	Y95	2	西欧の旅日記(海外ヨーロッパ第1回)	昭和41年	1966年	全37日間(昭和41年7月22日～8月27日)の「ソ連・西欧夏期セミナー旅行」に団長として参加した際の記録。学生を含む26人のツアーで、ソ連・西欧諸国を巡った。この旅について帰国後に講義した亜細亜大学公開講義「地理学者のみた西欧事情」(昭和41年)の資料も添付。旅先での所感メモや訪問地のパンフレット類、領収書等を貼付。
141	Y96	2	郡山市史民俗編資料Ⅰ	昭和42年	1967年	『郡山市史民俗編』の編さん関連資料。山口は前書きや衣食住など複数の章を執筆。会議資料や資料所在目録、調査員一覧等多数貼付。目次案や地区ごとの民俗関連の文献抜書きや参考文献リストが多い。中に「しんめいさま」等の聞き書きメモ(昭和42年7月14日)や、福島県郡山市多田野地区(昭和42年11月12日)、福島県郡山市西田地区(昭和43年4月8日)等の聞き書きメモも含まれている。
142	Y97	2	福島県民俗芸能調査録	昭和40年	1965年	表紙に「第15回浪江町に於ける大会記録」「昭和40年11月23日於浪江高校講堂」「第16回昭和41年11月23日於須賀川市」「会津高田伊須美神社信仰の再検討 昭和42年5月」とあり。福島県民俗芸能大会(第15回・第16回)の記録。パンフレット類貼付。福島県文化財専門委員としての見学記録(福島県浪江町疋宿の鹿舞・鉾舞・鉾舞田植踊り・福島県葛尾村の三匹獅子舞・鳥さし舞・福島県浪江町請戸の田植踊り等)及び各参加団体の調査記録。他に「会津高田伊須美神社の民俗学的再検討 昭和42年5月於東京亜細亜大学」を題する要点まとめあり。
143	Y98	2	隠岐群島の集落調査	昭和43年	1968年	亜細亜大学地理学特講の有志による現地調査旅行の記録。冒頭に参加学生7名の名簿、周辺地図貼付。手書きの旅程表では、山口は東京～富山～輪島～金沢～鳥取～別府と巡り、高根県隠岐島には昭和43年7月6～9日に滞在。帰路は新見～宇和島～室戸と巡っている(昭和43年6月30日～7月15日)。事前学習の抜書きや、調査地でのメモ書きの紙片・訪問地のパンフレット類・チケット・領収書等貼付。参加学生の隠岐島調査レポート抜込み。
144	Y99	2	福島県西会津地区民俗緊急調査録	昭和43年	1968年	『西会津地方の民俗』編さんに伴う調査記録か。冒頭に県教委の「振興山村地域民俗資料調査実施要項」貼付。ほか、打合せ会などの連絡文書や会議資料、「無形民俗資料の分類」「重要民俗資料指定基準」等のコピー貼付。予備調査の聞き書きメモ(昭和43年6月10日福島県西会津町野沢、昭和43年6月11日福島県西会津町新郷笹川新村及び高田)。本調査の聞き書きメモ多数貼付。福島県西会津町野沢地区(昭和43年7月26日)、福島県西会津町安座・水沢・関根地区(昭和43年7月27日)、福島県西会津町小島・萱本地区(昭和43年7月28日)、福島県西会津町松尾・下小島地区(昭和43年7月29日)。巻末に寺社のパンフレット、名刺等貼付。
145	Y100	2	福島県文化財専門委員会記録 第十一回北海道・東北ブロック芸能大会 (秋田)	昭和44年	1969年	福島県文化財専門委員会記録(昭和44年5月・9月、昭和45年3月)。福島県指定重要文化財の新指定記事の新聞抜書き(福島民報、昭和45年3月14日付)ほか、福島県内資料館や国立博物館建設、民俗芸能、工芸技術等に関する新聞抜書き多数貼付。巻末に第11回北海道・東北ブロック芸能大会(秋田開催)パンフレット貼付。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
146	Y101	2	西白河郡西郷村緊急民俗調査	昭和44年	1969年	冒頭に福島県教委からの「開発地域民俗資料調査員 委嘱状」(昭和44年7月16日)貼付。福島県教育委員会「西郷地方の民俗」(昭和45年刊)編さんに伴う調査記録。聞き書きメモ等は少なく、連絡文書等が多い。2つの封筒内に福島県史西郷村上羽太の天道念仏鋪等のネガと写真計40枚あり。巻末に和知恵二郎「テントウウ念仏について」(昭和41年12月25日付)の資料と「西郷村話者名簿」等貼付。「西郷村史資料集」(第1集・第2集)を挟み込み添付。
147	Y165	4	大内宿調査(第二冊)	昭和45年	1970年	「南会津郡下郷町大内宿調査 第2冊」。福島県下郷町の大内宿の歴史・民俗・建築の県教委による緊急調査における調査の記録(昭和45年8月7～11日)。民俗班として山口・岩崎敏夫・大迫徳行・和田文夫・橋本武が参加。下野街道・倉谷の民家配置図を記録。調査風景の写真を添付(山口・岩崎敏夫・和田文夫・大迫徳行ら写る)。資料「郷土の歴史—下郷百年」、宿場大内のしおり」なども添付。
148	Y166	4	大内宿調査(第一冊)	昭和44年	1969年	「南会津郡下郷町大内宿保存調査 第1冊」。福島県下郷町の大内宿保存への要望に関する新聞記事。連載「生きていた宿場(上・下)」(昭和44年7月)。山口による屋並みのスケッチ。
149	Y102	2	ヨーロッパ第三回目旅行(妻を同伴して)	昭和45年	1970年	ロンドン・パリ・ブリュッセルなど妻との13日間(昭和45年12月25日～46年1月7日)のヨーロッパ旅行の記録。アムステルダム・ハイデルベルク・チューリッヒ・ローマなどを歴訪した。パンフレット・地図・チケット類貼付。「会津の文化の研究を思う」(昭和45年12月30日記)の旅行中の下書きあり。
150	Y103	2	南会津・南郷村民俗調査録	昭和45年	1970年	会津民俗研究会による『奥会津南郷の民俗』編さんのための福島県南郷村調査記録。巻頭に「南郷村予備調査」(昭和45年9月25～26日)の調査記録貼付。「南郷村民俗調査要項(案)」(昭和45年10月18日)、レジュメ「南郷村の郷土誌の調査と研究について」「民俗講演要旨」(昭和45年11月10日)、ほか地形図等貼付。現地調査記録(昭和45年11月8～9日)多数貼付。福島県田島町円山公園の道祖神写真貼付。巻末に報告書の章立てなどの構成案の書込みあり。
151	Y104	2	アメリカ横断バス旅行	昭和43年	1968年	亜細亜大学教授時代の単身での旅行記録(昭和43年8月2～26日)。サンフランシスコ・バッド・アロー・ポストン・ニューヨーク・ワシントン・ダラス・デンバー・ロサンゼルス・ホノルル等を巡った。ノートには旅程表やパンフレット、各地の地図の切抜きのほか、山口自身が旅先で取ったメモ類や妻からのエアメールなどが貼付されている。
152	Y167	4	東南アジア調査日記	昭和43年	1968年	ジャバルパック「バリ島・アンコールワットと東南アジア」で巡った東南アジアの旅行記(昭和43年12月26日～44年1月7日)。バリ島・アンコールワット・タイ・バンコク・マニラ・ジャカルタ等の東南アジア旅行の旅程表や領収書、パンフレット類のほか、訪問地での所感や風景のスナップ等のメモを貼付。
153	Y105	2	ソ連芸術祭参加・シルクロードの旅	昭和44年	1969年	ソ連・中央アジア・シルクロードの旅行記録(昭和44年12月18日～45年1月15日)。ソ連芸術祭旅行団参加者名簿(順不同)の他、旅程、地図と旅行中のメモ、旅行先から妻への手紙など。
154	Y84	2	九州大宰府・五島列島調査	昭和45年	1970年	亜細亜大学在職中の「地理学特講」実地研修(昭和45年7月4～10日)での九州への調査旅行の記録。巻頭に「日本文化の源流(太宰府跡)・日本民俗学の重出立証法による南北の対比(東北の下北と九州の五島列島)を目的とする。」との書込みあり。冒頭部分は参考文献のリストと主要文献の要約、自作年表等を記す。宮本常一「私の日本地図」・山口麻太郎「志岐島民俗誌」などを参照している。聞き書きメモ(7月5～10日)及びパンフレット・チケット・領収書等貼付。ほか巻末に研修旅行の資料集「九州・太宰府・五島列島・平戸島の日本古代文化の源流調査」、関連する新聞切抜きを貼付。
155	Y106	2	東南アジア第二回調査(亜細亜大学第二回海上大学)	昭和45年	1970年	ノートに挟み込み資料「1970年度第二回亜細亜海上大学 東南アジア学生視察団」「亜細亜大学アジアハイレベル学術踏査隊踏査記」あり。東南アジア再調査(昭和45年7月18日～8月6日)。亜細亜大学の業務の一環として「研修旅行募集要項」ほか、日程表、地図(ビルマ、タイ、インドネシア、マレーシア、ジャバ、ボルネオ)、旅行中のメモ。旅行先から妻への手紙。

ノ一 番号	整理 番号	旧箱 番号	標 題	年代 (和暦)	年代 (西暦)	主 内 容
156	Y107	2	南会津郡只見町過疎村の民俗調査(夕沢・毘沙沢・吉尾・仲田・野々沢) 大沼郡長岡部落調査(日大総長鈴木勝氏 依託)	昭和45年	1970年	福島県只見町過疎村の民俗調査記録(昭和45年9月24～25日)。福島県只見町内各集落(夕沢、毘沙沢、吉尾、坂田字仲田、梁取字野々沢、蒲生字真奈川)での聞き書きメモと各集落の自筆の見取図等貼付。その他の文献からの抜き書き。調査執筆分担表(山口・渡部聖・中地茂男・橋本武・安藤正教・室井康弘・酒井淳)。巻末に鈴木勝(当時日大総長、柳津町大成沢出身)の依頼による福島県大沼郡長岡調査。(昭和45年9月27日)。巻末の封筒に民家・景観・火伏せ等の写真計43枚あり。
157	Y108	2	水没村桑原・舟子(大川ダム)民俗調査	昭和47年	1972年	大川ダムの水没集落の調査員として福島県会津若松市から委嘱された調査事業の記録。福島県会津若松市水没村桑原・舟子民俗調査(昭和47年11月19日～48年2月26日)及び福島県下郷町沼尾調査(昭和48年3月4日)。桑原集落調査(昭和47年11月19～20日)、舟子集落調査(昭和47年12月3～4日)の調査記録等貼付。新編会津風土記から関係地区分の抜粋等。巻末に「大川ダム水没部落(桑原・舟子)民俗調査報告書作成編集会議の開催について」(昭和48年8月11日)、「調査員委嘱状」(昭和47年11月10日)ほか会議記録・連絡文書類貼付。
158	Y109	2	福島県民俗芸能調査記録(空也念仏踊) 昭和46年度委員会記録	昭和46年	1971年	昭和46年度の委員会記録。福島県文化財専門委員として山口が関わった会議や調査の記録。空也念仏踊。石井の七福神・田植踊調査(鈴木新吉氏宅、昭和46年12月18日)、冬木沢空也念仏踊調査(昭和46年12月19日)の聞き書き等を含む。『河東村の信仰・民族・芸能・年中行事(民俗資料調査中間報告書4)』を挟み込み。会議資料「文化財保護行政に関する専門課設置の建議文(案)について」(昭和46年12月9日)、「昭和46年度第3回福島県文化財専門委員会会議資料」(昭和46年12月20日)など貼付。
159	Y168	4	福島県大沼郡三島町大石田民俗調査	昭和47年	1972年	表紙には他に「1993出版原稿発見、1994刊行成る」とある。冒頭に「大石田の民俗 原稿執筆状況」の一覧表プリント貼付。三島町教育委員会発行「御蔵入大石田の民俗」の編さん資料となった調査記録。調査は会津民俗研究会員らによる集団調査で行われた(昭和47年8月12～19日)。昭和47年8月15日付の福島県三島町大石田調査を報じる新聞切り抜きあり。その他調査の聞き書きメモを多数貼付。宗門改帳(寛政年間)の記録、伝説「弥三郎田」「弥彦稲荷」について。民家(中門造)スケッチ。集落の配置図。ガムテープ綴じの「奥会津三島町の民俗」の調査記録と三島町公民館発行の『おじいちゃんのお恵袋第2集地名』『みしま三島町公民館報』挟み込み。
160	Y1526	31	福島県文化財調査(民俗芸能)記録 附: 福島県文化財保護条例(昭和45年7月21 日公布)	昭和45年	1970年	福島県文化財専門委員として参加した会議等の記録。巻頭に「福島県文化財保護条例」貼付。会議資料のほか、「勿来御宝殿の田楽」調査記録と写真、「棚倉町八槻郡々古別神社のみ田植祭」調査記録あり。指定候補の文化財一覧。「全国文化財保護研究協議会」資料(昭和46年9月6・7日)。「大熊町熊川獅子舞」リフレット。「福島県民俗資料緊急調査記録」。「福島県民俗資料緊急調査 調査員名簿」。巻末に山口撮影の福島県内民俗写真(仁王像への安楽死祈願・葬列・耕地等)挟み込み。
161	Y169	4	会津坂下町誌編集・監修	昭和47年	1972年	『会津坂下町史 民俗編』の全体構成について。内容や構成案等の検討。編さん委員会資料。編さん室長(山内強)らとの協議記録。福島県会津坂下町内の各集落(東松・杉山・洲走・勝方など)での聞き書きメモや、町内寺院での仏像調査記録を多数貼付。大川ダム民俗調査報告書作成の打合せ記録。山内一三「野山の幸」、「会津万歳」等のプリント資料貼付。
162	Y170	4	会津坂下町史編さん資料(整理)	昭和48年	1973年	『会津坂下町史 民俗編』の構成案及び執筆案を記す。昭和48年8月17日に行われた福島県会津坂下町大村地区の神宮(鈴木進)による「修験霊術実演会」のプログラムと実見メモ。町内の仏像調査記録。「恩乗寺勢至菩薩略縁起」貼付。会津坂下町の自然概説。会津盆地に占める位置等。民俗編巻頭原稿案。各項目の執筆検討(執筆者と内容について)。
163	所在未確認		東北地方の生活調査調査巨理・江刺・男鹿・三厩	昭和48年	1973年	
163	所在未確認		三陸海岸気仙沼一綾里・小本一田老・岩泉・安家・恐山・尻屋	昭和48年	1973年	

ノット 番号	整理 番号	旧箱 番号	標 題	年代 (和暦)	年代 (西暦)	主 な 内 容
164	Y1527	31	水没村 会津若松市川溪村民俗調査	昭和47年	1972年	「昭和47年予備調査」「昭和48年7月25日～26日第1回調査」と書込みあり。会津民俗研究会による福島県会津若松市川溪地区(東山ダム建設に伴う水没村)の調査記録類。巻頭に「調査項目担当者表」、次頁からは川溪地区の世帯主一覧表、手書きの集落地図、聞き書きメモ類多数貼付。ダム建設による損失補償等についての新聞記事切抜き貼付。巻末の袋内に調査写真7枚添付。
165	Y1528	31	昭和48年日本地理学会秋季広島大会記録 西南四国・足摺岬海岸地形巡検	昭和48年	1973年	広島での日本地理学会(昭和48年11月10～11日)及びその後の巡検旅行の記録。資料・パンフレット類・調査記録等多数貼付。山口は12日から四国(宇和島・松山)と九州(別府・臼杵・国見)を回り、足摺岬・臼杵磨崖仏・国東半島石仏等を見学している。
166	Y1529	31	埼玉県東松山市地区開発基本調査録	昭和39年	1964年	亜細亜大学在職中に担当した仕事か。冒頭に関係者名簿あり(代表:安芸政一・多田文男、山口は研究員の1人として名がある)。「東松山地区における陸水の賦存量と地域開発に関する研究」の研究計画書あり。以下、埼玉県東松山地区調査記録(昭和39年9月25日)、「埼玉県西部産業開発地域開発打合せ会」(昭和39年9月30日)の調査記録。ノート後半に「東松山地区における陸水賦存量の分布状態と地域開発に関する一考察」(昭和39年10月22日提出)の論文下書きあり。巻末に関係者名刺・開発関連新聞切抜き、手紙等貼付。
166	Y1530	31	武蔵御嶽神社の宿坊と信仰形態	昭和42年	1967年	亜細亜大学在職時の「昭和43年度学寮委員研修会」で、学生や他学部の教員と共に4月1～4日に東京都青梅市の武蔵御嶽(憩山荘)に合宿した際に聞き書きの記録。巻頭に御嶽神社パンフレット貼付。「御嶽宿坊見取図」(昭和43年4月2日)の手書き集落地図あり。憩山荘(片柳正七)聞き書きメモ(昭和43年4月3日)。のち昭和44年も再訪している。文献からのまとめ、憩山荘(片柳正七)聞き書きメモ(昭和44年11月22日)、馬場善作家民家取図(昭和44年11月23日)学生を連れて再び訪れたとの記載あり。巻末に昭和43年4月の研修旅行のしおり、旅の記録メモ、宿や御嶽山の観光パンフレット等貼付。
167	Y1531	31	まぼろしの会津の古代史を追うて の古代史	昭和48年	1973年	三部作(会津の歴史)の内の1冊で山口が担当した『古代会津の歴史』(昭和49年刊)執筆のための構想メモ、関連資料のコピー、下書き、編集過程の連絡文書類、備忘録。資料等多数貼付。「昭和48年6月18日～12月11日(第1稿脱稿)」「昭和49年2月29日～5月30日(第2稿脱稿)」「昭和49年10月10日刊行」と書込みあり。
168	Y1532	31	裏磐梯北塩原民俗誌	昭和49年	1974年	巻頭に「北塩原村民俗調査事前協議要項」(山口、渡部聖・中地茂男・酒井淳彦、北塩原村当局より25万円の委託調査事業とメモ、昭和49年8月12日)及び「会津民俗研究会会名簿」等あり。会津女子高郷土研究部『会津の古建及び大塩・輪原・早稲沢部落調査』(郷土研究報告第5集、昭和31年)、調査項目、新聞切抜き、北塩原村長名簿等、調査の参考文献類貼付。巡検記録メモ(昭和49年10月24日)、執筆打合せ会会議資料(昭和49年11月15日)貼付。後半には山口による報告書原稿「第1章 村の概況」が書かれている。
169	Y171	4	民俗講演要旨集	昭和45年	1970年	原稿用紙に記された講演原稿類。「奥会津南郷村の生活がどう見えるか」(昭和46年12月12日、奥会津南郷民俗誌出版記念会講演要旨)。「郷土の民俗について」(昭和45年8月26日、福島県会津坂下町にて)。「会津の民俗のみかた 第1回郷土生活の研究と民俗学」(昭和45年9月7日、会津若松市婦人会)。「第2回口承文芸としての民俗芸能」(昭和45年9月14日、会津若松市婦人会)。「第3回信仰を中心とした心意現象の問題」(昭和45年9月21日、会津若松市婦人会)。「日本文化の源流と会津文化」(昭和46年1月17日)。福島県民俗学会設立における準備・発足に関する文書(昭和46年1月)。その他、「全国文化財保護研究協議会」「民俗文化財研究協議会」関連書類。
170	Y172	4	諸論考メモ集録帳	昭和46年	1971年	表紙に「バリ島の民俗芸能」「東北地方の民間信仰」とも。渡部聖会津民俗館長の業績(昭和50年1月)。「バリ島の民俗芸能と日本の十二神楽系統の対比論—民族学と民俗学の実証的研究の一例として—」(昭和46年4月13日構想)。「東北地方の民間信仰」(昭和49年6月17日、浄土宗東北地方教化等講習会講演に関する資料)。その他、所感メモや構想メモ類、新聞切抜き等貼付。「高橋亮画伯の思い出」(昭和49年3月2日)切抜き。巻末の封筒に福島県会津坂下町栗村神社の神主や早乙女踊の踊り手と山口らの写真、「郡山市湖南町字横沢と字館の界のオノ神」写真、箱床に眠る老人の写真等あり。

ノット番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 内 容
171	所在未確認		東北地方研究・二戸福岡町・青森県三沢町	昭和49年	1974年	
172	Y110	2	東北研究選集10巻 補遺2巻 刊行完成前後処理に関する記録	昭和49年	1974年	著作集刊行時の昭和49～53年にいたる出版社(世界文庫)とのやり取りの記録類。打合せメモや来信を貼付。ほか、巻末に刊行後の日本読書新聞での特集記事等の切抜きや月報などを添付。
173	Y17	1	クメール文化の故国カンボジア カンボジアの自然と文化	昭和46年	1971年	表紙に「46.7.30一応脱稿」とある。「カンボジアの自然と文化」の目次案、執筆用の文献リストや自筆の「カンボジアの開発年表」などの資料、及び新聞切抜きが含まれる。目次案や構想は亜細亜大学の用箋に記述。
174	Y111	2	東北地方研究・日本の固有生活を求めて 山口弥一郎選集 写真集	昭和48年	1973年	表紙に「満71歳誕生日(昭和48年5月13日)立案」など書込みあり。原案メモ類「日本の固有生活を求める意義—民俗学研究」(東北研究 序論)(昭和48年1月27日)、「日本の固有生活を求めて—東北研究の意味するもの—」(昭和49年2月1日)。「二戸市福岡町田中館秀三先生伝資料蒐集」(昭和49年8月9日～11日)の際の記録メモ・観光パンフレット類貼付。ほか「選集12巻刊行完了の挨拶」(昭和53年7月26日)など貼付。ノート後半に「写真蒐集 目次」として写真集刊行のための分野別写真リストあり。
175A	Y18	1	景観ものと人間の文化史 執筆メモ(風景論の探求 日本の風景を見直すために Discover Japanのために)	昭和46年	1971年	表紙には「昭和46年5月25日～8月26日脱稿」とある。法政大出版局「ものごと人間の文化史」シリーズの初期の刊行予定の一冊。山口に『景観』について依頼があり、具体的に計画が進んでいた様子。法政大出版局の「執筆要項」や、構成・目次案など貼付。「昭和46.9.18法政出版局へ原稿渡す、694枚」などと記載。風景や風土に関する各地の新聞記事切抜き。
175b	Y18	1	現代日本風景論(現代地理学原稿を模索して)	昭和52年	1977年	表紙には「昭和52.9.11青梅市御嶽の旅荘にて、創価大学教授山口弥一郎」とある。「第1章 地理学と風景論(景観論)」第2章 自然景観と人文景観「第3章 目で見る風土的景観」等、第8章まで目次あり。山口自身の「風景論」についての著作の構想が示されている。後半部に執筆資料のための新聞切抜き等があるが、白紙ページが多い。
176	Y1533	31	過疎村農民の原像出版関係	昭和47年	1972年	山口の『過疎村農民の原像』(昭和47年9月刊)出版のための執筆資料と編さん記録。手書き地図「首都圏と南奥羽過疎村民俗調査の位置」(昭和47年8月23日挿図ツクルのメモ)貼付。過疎村、都市と農村関連の記事、出版後の書評欄などの新聞切抜き貼付。編集者からの来信や出版契約書等貼付。
177	Y19	1	能登石動山修験秋雀の稲初穂調査 日本地理学会五箇村、白川郷、高山巡検記	昭和49年	1974年	表紙に「昭和49年10月5日東京発—10月9日会津若松発、10月10日～11日富山大学、学会出席、10月11日～石動山調査、10月12日五箇郷、10月13日白川郷、10月14日飛騨高山」と日程メモあり。富山大学での日本地理学会出席と石動山・五箇山での調査ノート。地図、願念坊踊りや石動山関連文献のコピー、学会参加登録票、チケット類、観光パンフレット、領収書等貼付。イタイイタイ病発生地・合掌集落・熊野についての調査記録及び岐阜早原白川村萩町のスケッチあり。
178	Y1534	31	沖繩慰霊旅行(蛙と共に)記録	昭和49年	1974年	妻との沖繩旅行の記録。「沖繩のお正月」のバックアワーに参加し、南部戦跡・首里・名護パイン園などを巡った。巻頭に「蛙の兄が昭和20年病院長として沖繩で戦死した念願の慰霊旅行を蛙と2人で果さんとす。」の書込み。昭和49年12月31日に羽田発、昭和50年1月3日に羽田着。観光パンフ・チケット類、所感や聞き書きのメモ、領収書類などを貼付。巻末には沖繩県の本土復帰の日(昭和47年5月15日)の朝日新聞の記事切抜きを貼付している。
179	Y1535	31	田中館秀三先生著作資料蒐集	昭和49年	1974年	巻頭に『田中館秀三 業績と追憶』(田中館秀三業績刊行会、昭和50年)の予約購入パンフレット貼付。山口は刊行会の代表主宰者として編集にあたった。同門の下米重房を岩手県二戸市へ訪ねた際の名刺類・刊行計画・師の遺品整理等の所感メモ(昭和49年8月9日)。手書きの出版会発起人名簿(昭和49年11月30日)。編集過程での来信等も貼付。山口執筆分(「田中館先生を追慕して(序文)」ほか)の下書きメモ。その他執筆のための文献コピー等の参考資料類。巻末に刊行費用の出納簿挟み込み。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
180	Y173	4	奥会津過疎村調査録	昭和49年	1974年	巻頭に「会津民俗研究会名簿」、「理事会の協議事項」(昭和49年6月30日)、「三島町の民俗調査実施について」(昭和49年7月21日)の連絡文書類あり。過疎村の調査を会津民俗研究会で行った際の調査記録とみられる。山口の調査として福島県金山町沼沢・太郎布・三条(昭和50年8月17日)、猪苗代町楊枝・壺下(昭和50年9月21日)の2日分、聞き書きメモが貼付されている。福島県松枝岐村の松枝岐歌舞伎調査記録(昭和50年8月18~20日)は「秘境 松枝岐の歌舞伎」(昭和51年刊)執筆のための調査(写真同封)。福島県下郷町大松川民俗調査記録(昭和52年8月6日)。
181	Y174	4	オーストラリア・ニューゼaland・トロンガ・フィジー・ハワイの旅	昭和50年	1975年	夫妻での13日間(昭和50年12月28日~51年1月11日)の旅行の記録。シドニー・クライストチャーチ・オークランド・ララトンガ・ホノルル等を巡った。旅程表や領収書類のほか、訪問地での所感や風景・民芸品のスケッチ等のメモを貼付。
182	Y1536	31	津波被害防止メモノート	昭和50年	1975年	表紙に「於東京・八王子・丹木・創価大学」と記入場所の記載あり。主に昭和50年5月13日(満73才誕生日)~53年6月頃までの新聞記事の切抜きで、「津浪監視に新鋭装置 気象庁」(昭和50年3月21日付)など、地震・津波・有珠山噴火・地震予知連絡会等関連の記事をまとめている。巻末に未貼付の新聞等あり。「資料 日本被害地震総覧」等の文献コピーも貼付。その他、研究者仲間からの来信貼付。巻末に「防壁で囲まれた村や町」(昭和48年9月11日)、「災害は忘れなくともやってくる」(昭和48年9月3日)など、新聞投書用の完成原稿貼付。
183	Y175	4	南アメリカ一周 インカ文明とアマゾンへの旅	昭和51年	1976年	夫妻での18日間(昭和51年8月8~25日)の旅行の記録。リマ・クスコ・プエノスアイレス・サンパウロ・リオデジャネイロ・メキシコシティ等南米各地を巡った。旅程表や領収書、パンフレット類のほか、訪問地での所感や風景・民芸品のスケッチ等のメモを貼付。
184	Y1537	31	(日本地理学会) 1976年度秋季学術大会プログラム(昭和51年10月10日~10月13日) 弘前大学にて	昭和51年	1976年	日本地理学会の1976年度秋季学術大会と合わせて巡った津軽半島一周の旅行記録(昭和51年10月10~14日)。学会のプログラム・巡検のしおり等貼付。その他山口自身の所感・考察等を記したメモ類、会った人々の名刺、旅行中のチケット・領収書等貼付。
185	Y20	1	シルクロード十字路の旅 アフガニスタン・バキスタンの旅	昭和51年	1976年	昭和51年12月27日~52年1月8日(13日間)の夫妻でのツアー旅行参加の際の記録。旅程パンフレット、観光用ビザ、領収書、シルクロード関連の新聞切抜き等貼付。シルクロード研究の調査を兼ね、現地の風景等のスケッチや所感メモを多数貼付。
186	Y21	1	牧口常三郎著「人生地理学」[郷土科教育]整理	昭和47年	1972年	牧口常三郎著『人生地理学』をテキストに、創価大学で行った「地誌学」の授業のための講義ノート。昭和49年創価大学第2回夏季大学講座講義要項「郷土研究からみた郷土教育へ」(昭和49年8月24~25日)、及び「創価教育研究会報」(No.1~7まで)の資料あり。
187	Y22	1	(会津の方言・福島県の民俗芸能)	昭和51年	1976年	福島県民俗芸能大会(於白河市民会館、昭和51年)への参加記録。大会プログラム、宿の領収書、関連新聞記事等貼付。「御神酒地蔵堂建立勸進帖(福島県会津若松市内、昭和51年11月吉日付)」あり。その他会津・「会津の方言」・講演・選集刊行祝賀に関する資料あり。「会津の方言」講演要旨(昭和51年11月28日記、民俗語彙について、メンバー・サツパカママ・フンゴミ・タツツケ等について、ウタゲイ(玄如節)について)の資料貼付。
188	Y176	4	猪苗代町史編集一監修者記録	昭和50年	1975年	『猪苗代町史』の監修者としての記録類。表紙裏に「編集者の意図メモ」あり。福島県猪苗代町からの文書「猪苗代町史の監修依頼について」(昭和50年12月22日)から、「猪苗代町史編さん委員会資料」(昭和52年4月23日)までの編さん委員会関係の資料類。原稿・調査記録・目次構成案メモ等。
189	Y177	4	猪苗代町史編集 監修ノートNo.2 I 自然編資料を中心として	昭和51年	1976年	資料綴り。『猪苗代町史』の監修者としての記録類。特に自然編(昭和52年刊)の関する資料の綴り。表紙裏に序文の構想メモ(昭和51年9月1日)あり。猪苗代町史に関する地理学の文献コピー、原稿、調査記録等多数貼付(昭和51年6月~10月)。巻末に町史編さんの年次計画・執筆一覧・歴史編目次案・民俗編目次案・執筆要項等添付。

ノット番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
190	Y178	4	猪苗代町史編集 監修ノートNo.3 執筆メモ、詳細目次、写真撮影メモなど	昭和51年	1976年	資料綴り。『猪苗代町史』の監修者としての記録類。「専門委員会」(昭和51年5月17日)、「町史編さん委員会」(昭和51年6月28日)の会議資料。原稿・調査記録・目次構成案メモ等。山口による自然編の「編集案大要」(目次案)、「猪苗代町史編さん要項」添付。
191	Y179	4	猪苗代町史監修ノート(4) 民俗編No.1 仏像調査(昭和52年7月18日～)	昭和52年	1977年	資料綴り。『猪苗代町史』の監修者としての記録類。「町史編さん専門委員会」(昭和51年11月15日)の会議資料。新聞切抜き、調査記録メモ多数貼付(昭和52年7～8月)。仏像調査記録(第1日目)は昭和52年7月18日)。
192	Y112	2	熱塩加納村民俗調査	昭和51年	1976年	山口自身によるノートと資料の綴り製本。『熱塩加納村民俗編』編さんのための調査記録等。冒頭に調査項目と調査者の一覧貼付。聞き書きメモと手書き集落地図・景観スケッチ等(昭和51年7月30日～8月2日)。とくにスケッチは山の景観・五峰山・採草地など多数あり。後半部に資料『あつしおかのう 20周年記念誌』(昭和49年3月31日)、『熱塩加納村要覧』(昭和44年)、熱塩加納村パンフレット(昭和49年)などを含む。
192	Y180	4	猪苗代町史監修ノート(5) 民俗編No.2 委員会及調査手引き資料	昭和52年	1977年	資料綴り。裏表紙に「猪苗代町史民俗編調査資料 民俗編5-2 委員会担当記録 民俗編執筆担当者担当」とあり。『猪苗代町史』の監修者としての記録類。執筆担当者による「猪苗代町史民俗編執筆調査打合せ」(昭和52年6月4日)の会議資料。その他手引き類として「民俗調査のしおり」「民俗編調査執筆の着眼」「民俗編資料調査のしおり」「猪苗代の民俗 達澤・名家・下館・都澤・百目貫・五十軒・見祢」などのプリント類を抜き込みで添付。
193	Y23	1	古代オリエント旅行 I	昭和52年	1977年	昭和52年3月10～24日の夫妻でのツアー旅行の記録(1冊目、3月10～21日まで)。旅程パンフレット、領収書、オリエント関連の新聞切抜き等貼付。訪問地でのスケッチや所感のメモ多数貼付。女性の服装、赤子の服装、ダリウス大王の墓、人面、見学地等のスケッチ。城のスケッチ等は日付あり(昭和52年3月19日)。新聞記事の切抜き(朝日新聞「イランの旅から」上・中・下)。
194	Y24	1	古代オリエント旅行 II・「世界をこの目でこの肌で」出版	昭和52年	1977年	昭和52年3月10～24日の夫妻でのツアー旅行の記録(2冊目、3月22～24日まで)。訪問地でのスケッチや所感のメモ多数貼付。「文化発祥地の遺跡確認の旅」(昭和52年12月25日、調査終了・調査報告書(昭和52年4月1日)構成、論文執筆要旨)。「会津文化の源流をシルクロードに求めて」講演要旨。新聞記事の切抜き(昭和52年当時のオリエント文明に関する連載記事)。後半部に「旅行写真集刊行の程」とインデックスあり、「世界の古代文化をこの目で・この肌で」の目次案と刊行経過を記す。
195	Y181	4	会津若松市町屋の民俗調査	昭和52年	1977年	会津若松市の『民俗調査報告書』(町方編・村方編)編さんのための調査記録。会津若松市から会津民俗研究会への町方民俗調査の「業務委託契約書」(調査開始昭和52年12月25日、調査終了・調査報告書提出昭和53年3月31日)の写しが巻頭に貼付。第1調査年に町方、第2調査年に村方調査を行う計画。「会津若松市民俗調査(案)」(昭和52年10月22日)ほか調査計画、執筆分担、調査項目、調査要項や研究会の会議資料、山口の調査記録・構想メモ(昭和53年1～8月頃)多数貼付。長嶺重延(刃物鍛冶)調査写真・ネガ添付。
196	Y182	4	北四国巡検-日本地理学会(昭和52年11月) 松山大会記録	昭和52年	1977年	日本地理学会参加に合わせた旅の記録。昭和52年11月26日発、27～29日学会、30日～12月1日巡検・帰京。大会開催の公告、連絡文書、巡検先のパンフレット類等貼付。
197	Y183	4	通信教育・教職課程 地理学 教科書目次掲載	昭和51年	1976年	創価大学通信教育部の教職課程「地理学」の教科書の構想メモを多数貼付。後半部に目次案あり。創価大からの「原稿受取書」(原稿渡し昭和52年6月2日)貼付。
198	Y184	4	地理学 通信教育講義稿案	昭和50年	1975年	創価大学通信教育部の発足にあたり教職課程「地理学」の担当となり、教科書を執筆した際の関連資料と、構想メモの綴り。会議資料や執筆要項等貼付。教科書の構想メモを多数貼付。後半部に目次案あり。添付資料として創価大パンフレット、原稿用紙の「地理学原論 目次」綴りが挟まれている。「原稿渡し昭和51年4月22日」と書込みあり。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
199	Y1538	31	地誌学—通信教育・教職課程(2単位)	昭和52年	1977年	「地誌学」の教科書執筆時の下書きと記録類。「昭和52年6月2日構想始め、8月末完了予定」とあり。参考文献の目次筆写、教科書の目次・構成案等あり。「通信教育原稿整理」(昭和52年9月3日)、「9月10日朝脱稿」(9月11日)、御嶽登山す、写真撮影…再調査の必要有」とある。往復リフト券、執筆のため宿泊した青梅市御嶽駅前旅館の領収書(昭和52年9月3~5日、9月10~12日)、原稿受取書(昭和52年9月13日)等貼付。巻末に昭和52年5~8月の新聞切抜き(国土庁「三全総」試案等)貼付。
200	Y1539	31	1、修験道とうば神・おんばさま信仰の問題 2、庚申信仰のインド・バビロニアからの源流	昭和53年	1978年	「昭和53年9月30日整理テーマ」と書き込みあり。インデックスとして各テーマの開始頁に「修験道と山姥」「庚申信仰の源流」の赤色の紙片を貼っている。「1」はテーマに関する参考文献の抜き書きや、現地調査(新潟県弥生村神社(はまか)の際、チケケット・パンフレット・調査記録を貼付。「2」は参考文献のリストアップのみ。巻末の封筒に「昭和52年12月27日 関脇おんばさますす払いの際の撮影」とあり、13枚の写真(福島県猪苗代町関脇・木地小屋・伯父ヶ倉、福島県会津若松市関川、福島県河東村冬木沢の各地区にあるオオンハ様像)が入っている。
201	Y1540	32	インドストウパー調査旅行	昭和53年	1978年	ツアー旅行「インド仏跡の旅10日(釈尊4大聖地とネパール)」での旅行記録(昭和53年12月30日~54年1月8日)。夫妻での旅行とみられるが、山口はカルカッタ・アダガヤ・バトナ・カトマンズ・リンピニ・ゴラクプール・ペナレス・デリーなどを巡り、各所で詳細なメモ・スケッチをとり、それをノートに貼付している。新聞連載記事「インド仏跡探索の旅」(インドで出会った子どもたち)などの切抜き、及び旅行のパンフレット・領収書類も貼付。
202	Y1541	32	シルクロード関係文献抄録集Ⅲ	昭和53年	1978年	昭和53年12月30日からの調査旅行(ノート番号201)に備えたシルクロード・ストウパー関連の文献抄録。「中村元選集」などの読書ノート及び文献のコピー・参考文献リストなどを貼付。その他、国内での現地調査の記録メモ貼付。大分県佐伯市・国東半島ストウパー調査(昭和54年3月13~16日)。山梨県甲府盆地ストウパー調査(昭和54年4月6日)。新潟県佐渡ストウパー調査(昭和53年10月4日)。調査地でのパンフレット類も添付。
203	Y1542	32	シルクロード関係文献抄録集Ⅱ(昭和53年10月~12月)	昭和53年	1978年	昭和53年12月30日からの調査旅行(ノート番号201)に備えたシルクロード・ストウパー関連の文献抄録。山口による目次も付されている。藤堂明保「西域紀行」・田中久夫「祖先祭祀の研究」などの読書ノート及び文献のコピー・参考文献リストなどを貼付。巻末には読書を経て山口自身の見解・考察をまとめている(昭和53年12月21日朝)。
204	Y185	4	シルクロード文献Ⅰ シルクロードを通った日本文化の原流	昭和53年	1978年	ノート(学研75Audio-Visual diary)へメモ・資料等貼付。シルクロード・ストウパー関連の文献抄録。巻頭に「シルクロードを通った日本文化の原流」「Stupaの伝承経路」と題があるほか、山口による目次も付されている。森豊「西域の古都望見」・深田久弥「中央アジア探検史」などの読書ノート及び文献のコピー・参考文献リスト・関連する新聞連載の切抜きなどを挟み込みで添付。山口の講演要旨「シルクロードの自然景観と開発—砂漠文化の特性」(昭和53年5月31日)など山口自身の文章も貼付。
205	Y1543	32	シルクロードの旅 北京-ウルムチ-蘭州-西安 地図協会のウルムチ旅行記録	昭和54年	1979年	社団法人地図協会の第四次日中友好訪中団(昭和54年7月27日~8月8日)の旅行記録。山口は顧問として参加。旅行の行程表、しおり、旅行中の日記やスケッチをまとめたノート。
206	Y1544	32	中華人民共和国—シルクロードの実証のための旅 旅行日程の計画の過程	昭和51年	1976年	創価大学アジア研究所によるシルクロード調査の計画に関するノート。計画書、団員名簿、日程表などをまとめたもの。また、シルクロードや中国の文化、社会情勢に関する新聞記事の切抜きを貼付。
207	Y1545	32	シルクロード・敦煌へⅠ 刊行原稿整理	昭和54年	1979年	創価大学アジア研究所第1回シルクロード学術調査(昭和55年8月17日~9月2日)の記録。山口は団長として参加。上海、洛陽、西安、蘭州、敦煌を巡る旅。名簿や行程表のような実務記録の他、訪問先の歴史や地理に関する切抜きとそれに対するメモがまとめられている。現地で見つけた運跡等のスケッチや調査記録を含む。
208	Y1546	32	理論考想を主としたシルクロードを通った卒塔婆(ストウパー)のながい旅路 原稿整理簿	昭和54年	1979年	シルクロード研究に関する文献の整理と要約。「ストウパーへの道」の各章の構成案。インド及びそこからからの仏教伝来に関する新聞記事の切抜き貼付。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 内 容
209	Y1547	32	大韓国・慶州・扶餘のストウーバ調査 ポロブドール・バリ・ストウーバ調査	昭和54年	1979年	昭和54年12月26～30日のバリ・ポロブドール調査と、昭和55年7月18～23日の韓国調査の記録。旅行の行程表やパンフレットをまとめたノート。滞在中の調査記録を貼付、参考文献の要約を記す。
210	Y1548	32	シルクロード・ストウーバ文献抄Ⅳ ストウーバのながい旅路-タシエンフルガンの捷路	昭和55年	1980年	「ストウーバのながい旅路」の構成案。関連する参考文献の要約。シルクロードに関する新聞記事（陳舜臣「天竺への道」朝日新聞等）の切抜き。
211	Y1549	32	シルクロード関係講演要旨	昭和55年	1980年	創価大学夏季講座（第6回（昭和53年7月23日）、第7回（昭和54年7月22日）、第8回（昭和55年7月26日））、福島県中学校教育研究会（昭和55年7月29日）の講演要旨など、シルクロード関係の講演要旨をまとめたノート。後半に「シルクロード文献抄録Ⅴ」として参考文献の要約を含む。
212	Y1550	32	シルクロード・ソ連領ブハラ・サマルカ ンド再度の旅行日程	昭和55年	1980年	昭和44年に予定されていた旅行が中止され、昭和55年に再度計画。「シルクロード研究の乾煌の現代的意義」「シルクロード研究の現代的意義-構想」と題した覚書や文献に関するメモ。宗教論、シルクロード、ソ連・アフガフ情勢などに関する新聞記事の切抜きを貼付。
213	Y1551	32	莫高窟ベゼクリク・竜門・雲岡調査録	昭和55年	1980年	莫高窟・竜門・雲岡等の地域に関する年表、既存の調査記録などをまとめたノート。
214	Y1553	32	シルクロード・敦煌へⅡ 西安後半～敦煌～上海	昭和55年	1980年	昭和55年8月25日～9月2日までの調査記録。調査地で手に入れたパンフレットや、調査記録などを貼付けてまとめたノート。仏塔などの建造物やその配置図、あるいは地形に関するスケッチなどもある。
215	Y1552	32	南インド・スリランカ仏跡ストウーバめ ぐり	昭和55年	1980年	朝日新聞主催「南インド・スリランカ仏跡の旅」（昭和55年12月24日～56年1月5日）に参加した際の記録ノート。行程表や申込書など各種書類、パンフレットなどに加え、当地での調査記録を貼付。また「南インド・タミルに日本語のルーツを見た」（週刊朝日 昭和55年11月28日）と題する記事の切抜きも貼付。
216	Y1554	32	シルクロード研究ノート・現代的諸問題	昭和56年	1981年	創価大学第9回夏季講座「現代のシルクロード研究の問題点」の要旨。「ヒンドゥー教・小乗仏教のストウーバ資料文献抄」と題した文献要約。アジア研究所「創大アジア研究3号」に掲載予定の「シルクロードの仏窟よりみたストウーバの道」と題する論文の構成案。現代日本人の宗教観に関する新聞記事の切抜きなどを貼付。
217	Y1555	32	長男二郎・仲人岡本仁さんの案内にて 老夫婦ヨローロッパ音楽をきく遊びの旅	昭和56年	1981年	菱和ダイヤモント航空サービス株式会社主催「指揮者岡本仁さんとともにヨーロッパ音楽の旅」に参加した際のノート（昭和56年8月14～18日）。当地での行動を記したメモと、パンフレットや切符、地図などを貼付。教会などの建築物や風景のスケッチもある。
218	Y1556	32	シルクロード・トルファン-カシュガル へⅠ シルクロード・トルファン-カシュガル -ホータンⅡ	昭和56年	1981年	ワールド航空サービス主催「タクラマカン砂漠2000キロの旅」（昭和60年9月25日～10月11日）に参加した際の記録ノート。昭和56年の旅が中国側の受入中止にあい、昭和60年に再度ツアーに参加した。参加前に現地の地図や歴史年表をまとめている他、旅行中の調査記録やスケッチパンフレット等を貼付。
219	Y1557	32	大韓国・扶餘・慶州歴史の旅 中国一朝 鮮-日本ストウーバ調査	昭和56年	1981年	トラベル世界株式会社主催「韓国 古代王朝と寧元を訪ねて」（昭和56年12月31日～57年1月4日）に参加した際のメモやパンフレットの貼付。「朝日歴史教室 日刊古代文化・飛鳥セミナー」に参加して奈良県の橘寺などを見学した際のパンフレット、調査記録を貼付（昭和57年1月9～10日）。日本地理学会秋季大会に合わせて大阪の四天王寺、奈良の薬師寺・唐招提寺・法隆寺などを訪れた際のパンフレットや調査記録の貼付（昭和56年11月15日）。
220	Y1558	32	北海道東部新緑の周遊の旅記録 北海道西部・日本地理学会巡検旅行	昭和57年	1982年	国際ロータリー社主催の北海道旅行、及び北海道大学で開催された昭和57年日本地理学会秋季大会と巡検の記録。山口は「1977～1978年噴火に伴う有珠山の地形・環境変動」という巡検に参加しており、有珠山噴火に関する論文の抜き刷りなどもノートに貼付。
221	Y1559	32	シャーマニズム研究ノート① 日本文化 の源流を北方ステップルーツに模索する	昭和57年	1982年	シャーマニズム及びシルクロード研究に関する参考文献とその要約を貼付。関連する新聞記事の切抜きなどを貼付。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
222	Y1560	32	シャーマニズム研究ノート②	昭和58年	1983年	シャーマニズム及びシルクロード研究に関する参考文献とその要約を貼付。関連する新聞記事の切抜きなど貼付。「補充資料」と題したメモを記す。また「原始信仰のシャーマニズムより人生哲理の宗教への道 昭和58年11月19日未明研究構想成る 山口弥一郎81才6ヶ月」と題して研究構想を記している。
223	Y1561	32	シャーマニズム研究ノート① 1983年秋季地理学会記と八重山諸島の自然と人文巡検の旅	昭和58年	1983年	昭和58年に開催された1983年秋季地理学会及び巡検の記録(昭和58年10月8～13日)。各種パンフレット、当地での調査記録や主に地形に関するスケッチが記されたノート。沖繩のシャーマニズムに関する参考文献やメモも何点が記されている。
224	所在未確認		只見町石伏民俗誌ノート	昭和58年	1983年	
225	Y1562	32	会津漆器の歴史と背景 会津若松市前市長高瀬喜左衛門依嘱 全 国漆器大会資料	昭和48年	1973年	「会津漆器の歴史と背景」と題する原稿の下書き。参考文献及びその要約を記すほか、依頼状などを貼付けたノート。
226	Y1565	32	シャーマニズム研究ノート③ シャーマニズム文献抄③	昭和59年	1984年	序文に自らの研究講を記す。主にシャーマニズム研究に関する参考文献の紹介及び要約を記し、関連する新聞記事の切抜きを貼付。他に、民俗学、地震などの自然災害に関する新聞切抜きも貼付。また、「回顧記 八十二歳老翁一生妻事記」と題して、自らの結婚を振り返る文を記している。
227	Y1564	32	シルクロードの3ルートの伝承的特質(総論)	昭和59年	1984年	「シルクロード研究の地理学的、民族学・民俗学的伝承的特質を結びとして」と題する論文の構想と要旨を記す。昭和60年3月発行「アジア研究」第6号掲載の「シルクロード伝承の特性」の抜き刷りの貼付。
228	所在未確認		「体験と地理学」執筆要項・東北研究地域探訪	昭和59年	1984年	
229	Y1563	32	九州より盛岡へフルムーン旅行	昭和59年	1984年	近畿日本ツーリスト主催の「よくばりフルムーン旅行(九州・秋・津和野・京都)」に参加した際のパンフレットや書類などをまとめたノート。その流れのまま、盛岡まで足を伸ばした様子を書き記す(昭和59年3月20～29日)。
230	Y1567	32	猪苗代町歴史編監修ノート(一)	昭和53年	1978年	『猪苗代町史 歴史編』編さん構成案、会議資料などをまとめたもの。町史の人気を伝える朝日新聞記事の切抜きなどを貼付。
231	Y1568	32	猪苗代町歴史編監修ノート(二)	昭和53年	1978年	猪苗代町史歴史編監修ノート(一)(ノート番号230)で示した構成案について、修正や追記が記されている。他に猪苗代町の歴史年表、文書等の参考文献リスト、会議資料などをまとめている。
232	Y1569	32	猪苗代町歴史編監修ノート(三)	昭和54年	1979年	構成案の修正、執筆に関するメモなど。昭和54年6月作成の『猪苗代町史』編さん要項などが付されている。
233	Y1570	32	猪苗代町史 4 民俗編(目次 構成)	昭和53年	1978年	『猪苗代町史 民俗編』の目次・構成案。一部未書きで訂正が入ったものあり。構成等に関するメモを貼付。猪苗代町公民館中央高齢者学級での「猪苗代町のおはなし」と題する講演の要旨もまとめている。
234	Y186	4	猪苗代町史第三巻歴史編監修第四冊	昭和56年	1981年	目次構成を記す。一部資料写真及びネガがまとめている。
235	Y1571	32	福島県山都町史民俗編ノート	昭和58年	1983年	目次及び構成案、会議資料、町史編さんについての広報物等をまとめている。調査項目を提示した資料や、発刊に関する助言・指導などのメモ、調査に関するメモなどが含まれる。
236	Y1572	32	「タクラマカンの旅」刊行 シルクロードのストーリーパ研究補遺整理	昭和60年	1985年	踏査(昭和60年9月25日～10月11日)、整理(昭和60年10月12日～)、脱稿(昭和61年3月3日)、ストーリーパ研究年表整理(昭和61年11月)、刊行までの記録(昭和61年3月12日～9月4日)、刊行(昭和61年9月30日、1000部)。「タクラマカンの旅」刊行に関するメモ、参考文献要約などをまとめたもの。
237	Y1573	32	福島県湯川村浜崎民俗調査録	昭和60年	1985年	会津民俗研究会が行った湯川村での共同調査の記録(昭和61年8月2～3日)。テーマは「交通・運輸・通信・交易」。調査記録、地図、話者や区長の一覧などをまとめている。また、調査後の昭和61年8月12日に記された「会津湯川村の交通、特に浜崎の日橋川水運・船跡などについて」と題する文章、昭和61年3月7日に湯川町高齢者コミュニティセンターで行われた講演「民俗資料採録の話」の原稿もまとめている。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 内 容
238	所在未確認		山都町史民俗調査ノート	昭和61年	1986年	
239	Y1566	32	古代文化発祥資料 世界文化構成論への足がかり カシノガル郊外・莫爾仏塔実地調査	昭和60年	1985年	ストゥーパーバに関する参考文献要約を記し、新聞記事の切抜きを貼付けたノート。
240	Y1574	32	四天王寺・法隆寺・法輪寺・法起寺・三輪神社・室生寺・当麻寺stupa調査	昭和62年	1987年	法隆寺、法起寺、四天王寺など、大阪・京都・奈良の寺社の調査記録、パンフレットなどを貼付。長野県諏訪市の諏訪神社を訪れての調査記録を貼付。「stupaへの道」と題した原稿執筆に関するメモ。「奈良宝生寺・三輪大神社・京都黒谷墓参行 法起寺・当麻寺の仏塔と金堂との配置」と題した調査記録。
241	Y113	2	福島県只見町石伏民俗誌ノート	昭和58年	1983年	只見ダム建設に伴う石伏集落の調査に関する調査記録。委嘱状や調査要領、項目及び執筆分担表、只見ダム対応組織名簿、水没者移転先調査などのコピーを貼付。会津若松市南原地区の須恵器窯跡群に関する新聞記事の切抜きを貼付。会津民俗研究会昭和58年度事業計画として「しつけの民俗」調査案を貼付。ノート番号224の間違いか。
241	Y1575	32	日本地理学会・東北地理学会 1972年度 秋季学術大会 山形大会 資料	昭和47年	1972年	日本地理学会・東北地理学会大会の資料をまとめたノート(昭和47年10月8～11日)。山口が参加した巡検「出羽三山コース」見学の際のメモや山形・福島県内各地の観光パンフレットなどが貼付けられている。
242	Y25	1	大迫・羽山・早池峰山民俗芸能祭記	昭和62年	1987年	民俗芸能学会による「おおはさまハヤチネフェスティバル」参加の記録(昭和62年7月30日～8月5日)。シンポジウムや見学先でのメモ、調査記録などを貼付。
243	Y26	1	諏訪大社・寺社配置 甲府武田信玄遺跡 塩尻峠・松本城見学 セミ旅行	昭和63年	1988年	創価大学教育学部郷土研究ゼミの実習旅行記録(昭和63年2月16～18日)。長野県諏訪市の諏訪大社の由緒やパンフレット、関連する文献のコピーを貼付。「諏訪信仰と神殿配列、御柱祭の意義について」と題した文章を記している。
244	Y27	1	第三期東北地方研究 昭和62年8月早池 峰神楽 山口弥一郎85才帰郷研究準備	昭和62年	1987年	表紙裏に「卒塔婆の道—シルクロードを伝承した源流を求めて」刊行の主旨を記す。参考文献の要約。新聞記事の切抜きを貼付けて、コメントを記す(連載「日本文化論」を考へ)や「柳田国男の書屋を解体 ゆかりの長野県移築へ」という記事には多くの赤線が引かれている。「東北地方の民俗芸能の源流と伝承」と題して、昭和62年7月30日～8月8日までに見た様々な神楽などを列挙したメモなど。
245	Y28	1	退京点検旅行記録 I 昭和62.12.14 丹 木荘	昭和62年	1987年	八王子を去るにあたっての想いを記す。創価大学郷土研究ゼミによる実習をはじめ、八王子近辺や玉川上水に関する新聞記事の切抜きやパンフレットなどを貼付。長野県高遠町や会津への旅行記録。奈良シルクロード博のパンフレットや見学メモを貼付。
246	Y1576	32	耶麻郡高郷村民俗調査記録 三陸海岸津波災害常習地の検討	昭和62年	1987年	会津民俗研究会会長として行った福島県高郷村共同調査の記録(昭和62年8月17～18日)。開書きを貼付、話者一覧などを記す。また、「三陸海岸一巡、津波防災の現状視察」(昭和62年8月20～22日)として久慈、宮古、大船渡、気仙沼、石巻などを巡っている。各地の観光パンフレットとともに、旅行中の記録を貼付。
247	Y1577	32	東南アジア地誌講義資料図録	昭和45年	1970年	講義資料としての新聞記事などの切抜きを貼付けたノート。ベトナム、カンボジア、タイ、ラオス、インドネシアなど、東南アジア各国の社会情勢に関する記事をも幅広く集めている。
248	Y29	1	信州高遠調査	昭和63年	1988年	歴史春秋社主催「武田信玄の史蹟と高遠町をたずねて」(昭和63年4月14～15日)に参加した記録ノート。長野県高遠町とその周辺の観光案内、旅行中のメモなどを貼付。
249	Y30	1	諸原高執筆覚え書き・雑記帳	昭和59年	1984年	『文化誌日本 福島県』(昭和60年刊)の山口執筆一覧及び原稿、「民俗と地名」と題した講演会要旨、通信教育「学光」の教材研究—地誌学の構成、脳死問題などに関するメモ。
250	Y31	1	夢の告示による神殿配置による神信仰の 固有性探求	昭和61年	1986年	日本人の死生観や心臓移植など、医療に関する新聞記事の切抜きを貼付。また、「脳死を個体死と確認することへの疑義」と題した下書き原稿を記す。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
251	Y1578	32	遠野への旅	昭和63年	1988年	会津民俗研究会の会長として行った巡検の記録(昭和63年8月2～4日)。博物館や昔話の語りを見学してのメモを記す。遠野伝承園でおしらせま奉納堂を見ての、おしらせまに関するメモなども。旅行を終えて、「東北地方研究再検討の旅」(昭和63年8月9日)という文章を記したほか、9月20日と30日の毎夕新聞に「随想 遠野への旅(上)(下)」を寄稿し、その切抜きを貼付。
252	Y1579	32	人生随想録その他	昭和62年	1987年	「大島建彦教授のあんばい信仰の研究発表を聞く」や「とみに老いた人生を思う」と題した文章を記す。鶴ヶ城の整備や「小松獅子舞考」出版といった会津に関わる記事から脳死問題に関する記事まで、多岐に渡る切抜きを貼付。
253	Y1580	32	会津深訪 帰郷と前後の記録	昭和63年	1988年	松平勇雄県知事退任やソウルオリンピック開幕など様々な新聞記事の切抜きを貼付。毎夕新聞に掲載された牧野登の随想「〈会津への手紙〉拜啓佐藤正信様」(全3回)には多くの赤線が引いてある。昭和63年度の会津高等学校同窓会総会要項や会報なども貼付。
254	Y1581	32	退京点検旅行記録Ⅱ	昭和63年	1988年	八王子周辺の探訪記録。野口雨情や武田信玄の娘松姫に関する記事を貼付け、メモを記している。その他、様々なテーマの新聞記事の切抜きなどを貼付。
255	Y32	1	退京点検旅行記録Ⅰ	昭和63年	1988年	高尾山・陣馬高原といった東京都八王子市近辺、五日市町などを散策した際のメモ、同地の自然などに関する新聞記事の切抜きを貼付。昭和天皇崩御に関する新聞記事の切抜きを貼付。その他、メモや新聞記事の切抜きの貼付多数。連載記事「尊厳と死」(朝日新聞)や「受精卵は命か」といった生命論に関する記事には多くのコメントを付している。
256	Y1582	32	退職退京 半ヶ年の記録Ⅲ	昭和63年	1988年	各種新聞記事の切抜きや、式典、依頼などを貼付。創価大学最高栄誉授賞式の案内や、郷土研究発展のためにと会津若松市に1000万円を寄付した際の新聞記事なども含む。
257	Y33	1	帰郷前の留守宅記録Ⅱ 東北地方研究再検討課題	昭和63年	1988年	郷土研究奨励賞趣旨文のコピー貼付。退京・帰郷を前にして、自身の反省を振り返る随想。米寿を迎えるにあたっての中川原町での新年挨拶原稿(昭和64年1月1日)。昭和天皇崩御の新聞記事切抜きを貼付、コメントを付す。その他、会津若松市市制90周年式典、「若き日の警女における郷土研究の思い出し」、「シルクロードの話」の講演要旨、新聞記事の切抜き貼付など。
258	Y117	3	東北地方農村生活研究再検討 八十七歳 帰郷第1年目記録Ⅰ	平成1年	1989年	「私の民俗学方法論」と題した民俗研究史の構想要旨。東北地方の再検討として、阿仁など主に秋田県方面の旅の記録(平成1年4月25～28日)、青森県北津軽金木町金木・川倉・養の河原で巫女信仰の調査の記録(平成1年7月24～26日)。松尾芭蕉「奥の細道」300年記念旅行の記録(平成1年7月3～6日)。「東北地方研究者のみた松尾芭蕉の「奥の細道」観」の原稿コピーを貼付。
259	Y118	3	東北地方農村生活研究再検討Ⅱ	平成1年	1989年	北上山地の山村を旅しての調査記録(平成1年8月6～9日)。「柳田國男の『海上の道』を思う日」と題したメモ。「東北地方の文化の移入系統検討」と題したメモ。東北・北海道再検討旅行の記録(盛岡・青森・函館、平成1年10月23～26日)。
260	Y119	3	東北地方農村生活研究再検討Ⅲ	平成1年	1989年	「青森県下北郡東通村蒲野沢・能舞(法印神楽)を訪ねて」と題した旅行及び能舞についてのメモ(平成1年10月25日)。「平成2年度の研究構想」と題したメモ。川俣町の紫紺染(草木染)に関する文化財調査のメモ。韓国の民俗、特に巫俗についてのメモ。その他、田沢湖のクニマスや自然環境、連載「樓蘭訪問記」といったシルクロードに関するものなど、多数の新聞記事の切抜きを貼付。
261	Y187	4	餘生記録 生命尊厳論を中心としてⅠ	平成1年	1989年	新聞記事の切抜きや覚書など。ポイジャー2号や平城京跡での最古の絵馬発見、県が行った「福島県のイメージ」調査などに関する新聞記事を切抜いて貼付。メモを添えている。詩人で外交官であった柳澤健の生誕100周年及び詩碑除幕の記事を複数切抜いて貼付。
262	Y188	4	会津での餘生活動記録Ⅱ	平成1年	1989年	詩人で外交官であった柳澤健の生誕100周年に関する新聞記事の切抜き、及び文学展への案内などを貼付。自身の米寿祝賀会についての感想文など各種の記録、各種新聞記事の切抜きなども貼付。
263	Y120	3	東北地方研究再検討Ⅳ 平成二年度第一冊	平成2年	1990年	岩手県江刺市、水沢市、盛岡市、矢巾町、青森県三沢市、六ヶ所村などでの調査記録。産業廃棄物規制、六ヶ所村の核燃料施設、地震に関する記事など、新聞記事の切抜きを貼付。

ノ一 番号	整理 番号	旧箱 番号	標 題	年代 (和暦)	年代 (西暦)	主 な 内 容
264	Y121	3	帰郷2年目の生活記録1	平成2年	1990年	各種祝賀会などの挨拶文を貼付。日記的なメモ。葉書などの貼付。「四国・瀬戸大橋と国際花と緑の博覧会の旅」参加の記録。各種新聞記事の切抜きを貼付（自身の寄附で設立された会津若松市の郷土研究奨励制度や、その対象の第一号が佐々木長生に決まった記事など）。
265	Y189	4	東北地方研究再検討記録V 平成2年第 二冊目	平成2年	1990年	青森県下北・恐山を中心にしたイタイコ・口寄せ調査旅行に関する調査記録、参考文献のまとめや要約など（平成2年7月19～21日）。「津波災害常習地釜石市両石の移動集落の再検討」に関するメモ。会津民俗研究会における津南から信州への研修旅行に関する資料の貼付（平成2年8月5～7日）。
266	Y122	3	平成2年の生活記録2	平成2年	1990年	自身の教え子である創価大学卒業生来訪の記録や手紙・葉書の貼付。会津高校の記念式典や磐城女子高、会津女子高の同窓会の案内を貼付。各種新聞記事の切抜きを貼付（若松市や福島県内の文化・自然に関する記事など）。三島町の蔵の神に関する記事から、蔵の神や道祖神に関するメモを残している。
267	Y123	3	東北地方研究再検討記録VI 平成2年第 三冊	平成2年	1990年	岩手県釜石市両石を中心にした津波災害常習地の調査記録（平成2年9月4～6日）。第32回北海道・東北ブロック民俗芸能大会（秋田県秋田市）に参加してのメモなどを貼付（平成2年9月8～10日）。岩手県釜石市唐丹町での調査記録（平成2年10月15～16日）。棚倉町等への文化財探訪の記録（平成2年11月1～2日）。その他、新聞記事の切抜きを貼付。
268	Y124	3	世界文化史論人間論文献抄	昭和61年	1986年	冒頭に自らの研究譜を記す。また世界史関連の参考文献の要約を記す。同じく世界史関連、各種社会情勢に関する新聞記事を切抜き、コメントなどを記して貼付。
269	Y1583	32	東北地方研究の再検討 第三巻 人の巻 米寿誕日を期して 平成2年（1990）5 月13日構想	平成2年	1990年	人生論執筆にあたっての構想などを記す。津軽・宇鉄への旅の記録を貼付（平成2年11月18～22日）。「民間信仰の現実性」や「人生論—靈魂の行方」、「世界文化構成論」と題したメモなど。他、中東情勢など各種時事問題に関する新聞記事の切抜きを貼付。
270	Y1584	32	東北地方再検討 調査旅行記録（第3巻 人の巻・人生論資料Ⅱ）米寿過ぎ89歳の 余命精進	平成3年	1991年	古峯神社・明治村・田縣神社・豊川稲荷への旅行記録。メモやパンフレットを貼付。仏教やイスラム教、キリスト教などに関するメモ。世界文化論に関するメモなど。各種新聞記事の切抜きを貼付。アイヌやケルト難民など、少数民族や民族問題に関する記事に多く赤線が引かれている。
271	Y125	3	さいはて尻屋紀行 東北地方研究の再検 討 地の巻 人の巻 佐藤孝八夫妻と共に	平成3年	1991年	丸八印刷社長佐藤孝八夫妻とともに十和田、八甲田、恐山、尻屋などを旅した記録（6月10～15日）。旅先でのメモを貼付、調査記録や自身の考えなどを記す。参考文献の要約、観光パンフレットの貼付。
272	Y126	3	東北地方研究の再検討 脱稿論文	昭和62年	1987年	『東北地方研究の再検討』執筆メモ、要旨などを記す。他に「私の民俗学方法論構想」、「おしらすま源流考 民俗学から民族学へ 柳田国男師匠へ捧ぐ」、「卒塔婆信仰の系譜、会津のさるさる（猿袴）論」などの構成案をメモ。
273	Y156	3	世界文化論構想Ⅰ（東北地方研究再検討 天・地・人3巻完成後の発展）	平成3年	1991年	日ソ関係に関する新聞記事を切抜き、多数貼付。尻屋調査についてのメモ。ブナと自然林についてのメモ。「郷土研究より世界文化構想へ」と題した執筆構想。新聞記事の切抜き貼付。
274	Y190	4	世界文化論構想Ⅱ	平成3年	1991年	湾岸戦争などの世界情勢に関する記事を中心にした新聞記事の切抜きを貼付。自身の考えなどを書き記す。
275	Y191	4	会津館岩村史 編集・民俗編監修	平成1年	1989年	村史編さんにあたっての事務書類（委託状、委員会規則、名簿等）を貼付。項目、執筆者、ページ数に関する案、参考文献等を記し、調査記録を貼付。
276	Y192	4	東北地方研究3巻出版祝賀会並に卒寿祝 賀会	平成3年	1991年	祝賀会の案内や資料等、宗教や世界情勢などに関する新聞記事の切抜きを貼付。また、会津民俗研究会による大戸町閼川地区の調査に関する調査記録。
277	Y193	4	山口弥一郎卒寿後のたわごと記①	平成3年	1991年	祝賀会・講座等各種の案内状、多岐に渡る内容の新聞記事の切抜き（ソ連情勢、日米関係、昭和村のカラミン生産が選定保存技術に選ばれた記事など）を貼付。暴力団新法にからんでの「祭りから露店が消える!?」という記事には、会津のお日市に重ねたコメントを記している。
278	Y194	4	人生精進論研究記録巻一	平成3年	1991年	人生精進論を進めるにあたっての意気込みや目的などを記す。日米関係やソ連の解体を報じる記事、大 洋戦争を振り返る記事などの切抜きを貼付。

ノート番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 な 内 容
279	Y127	3	山口弥一郎卒寿後のたわごと記②	平成3年	1991年	各種祝賀会の案内状、喪中葉書等を貼付。新聞記事の切抜きを貼付。ブッシュ大統領顔訪日と宮中晩餐会について、金田一春彦のインタビュ、「当下駄ばき事情」などの記事に多くの書込みがある。
280	Y128	3	人生精進論 研究記録 巻二	平成3年	1991年	ソ連の崩壊とロシア共和国成立を報じる新聞記事の切抜きを多く貼付。民間信仰等に関する自身の研究業績の列挙。90歳になつての研究構想。脳死問題、ASEANや民族紛争といった世界情勢などに関する新聞記事の切抜きを多数貼付。
281	Y129	3	人生精進論 研究記録 巻三	平成4年	1992年	「人生論へ辿る道筋 1992.3.24」と題したメモ。各種新聞記事の切抜きを貼付(生命倫理、地震、歴史書、古代史など多岐に渡る内容)。
282	Y130	3	人生卒寿後のたわごと 巻3	平成4年	1992年	平成3年度会津若松市郷土研究奨励賞の記録。葉書等の貼付。日常の出来事に関するメモ。山村と過疎化、古代史、文化財等の新聞記事の切抜きを貼付。
283	Y131	3	人生卒寿後のたわごと 巻4 日記に代えて	平成4年	1992年	磐城女子高の同窓会に招待されたのいわき行きメモ。日常の出来事に関するメモなど。新聞記事の切抜きを貼付。長谷川町子の死について、昭和村の喰丸学習センター、アジアの民族紛争、山形県西ノ前遺跡の土偶発見等に関する記事にコメントを付している。
284	Y132	3	紀州熊野修験の源流と吉野朝遺跡・伊勢松坂の本居宣長宅 阿仁マタギ・男鹿津波・出羽修験再検討 寒河江 紅花館見学 湯殿山滝東寺大日坊即身仏(朝内村大綱)	平成4年	1992年	奈良県奈良市・和歌山県熊野地域・三重県松阪市等を巡る旅行(平成4年4月14~17日)の資料・パンフレット及び現地での調査記録を貼付。会津民俗研究会研修旅行(平成4年8月14~16日)での秋田県阿仁町と羽黒山参拝に関する資料と調査記録を貼付。
285	Y133	3	平成3年の生活記録 I	平成3年	1991年	福島県会津若松市の初瀬川ウメ記念館開館、大越大雄氏葬儀等の平成3年の出来事や、文化財指定等の新聞記事を切抜いて貼付。諏訪神社の縁起とご案内などを貼付。
286	Y134	3	人生精進論 巻4 満九十歳の誕生日を迎えて	平成4年	1992年	北海道・東北プロロック民俗芸能大会旅行(平成4年9月11~14日)中に記したメモ。他、主に文化・宗教・考古学等々の新聞記事(中沢新一「新しい唯物論で人間探求」、関西靖国訴訟判決、沖縄研究国際シンポジウム、各地の縄文期の遺跡に関する記事)などを切抜いて貼付。
287	Y135	3	人生卒後のたわごと 巻5 日記に変えて(九十一歳の提言1993.1.31)	平成4年	1992年	東京での自身を囲む会(平成4年10月24日)、裏磐梯や福島県館岩村散策といった日常の出来事に関するメモ。古代史や遺跡発掘等の新聞記事の切抜きを貼付。
288	Y136	3	人生精進論集5 研究の究極に向かって(九十歳の提言)	平成4年	1992年	新聞記事の切抜きを貼付。世界情勢や民主主義、青森県六ヶ所村の核燃料再処理施設、宮城・岩手の魚業紛争、フタバスズキリユウ発見者鈴木直のインタビュー等。古事記・日本書紀や折口信夫についての記事に多くのコメントを記している。
289	Y137	3	人生卒後の提言・たわごと 巻6 日記に代えて(九十歳後の提言)(心情をこめた余生として)	平成5年	1993年	日常の出来事に関するメモ、葉書等の貼付。新聞記事の切抜きを貼付。伊東正義政界引退、動物紀行「尻屋崎の寒立馬」、堀川史研究等。「土に似合うおしゃやれ」という野良着についての記事に、「野良の美装」と題してコメントを付している。
290	Y138	3	人生精進論 巻6 研究の究極何処ぞ九十歳の提言 人生論の反省自覚 既に92才か。	平成5年	1993年	「神・宗教の実在を解明せんと」と題したメモ。新聞記事の切抜きを貼付。脳死問題、田中角栄死去、メキシコの先住民問題、信教の自由、チベットアーム、民俗学的「学校の怪談」などの記事にコメントを付している。
291	Y139	3	人生精進論のたわごと 巻7 日記に代えて	平成5年	1993年	日常の出来事に関するメモ、葉書等の貼付。新聞記事の切抜きを貼付。台風13号による鹿児島山崩れ被害について、会津漆器の「職人の会」、会津の鍛冶屋敷、秋田の朝市、遺跡発掘等に関する記事。
292	Y140	3	人生精進論 巻7	平成6年	1994年	92歳になって、自身の研究の道を振り返り、展望を記している。各種新聞記事の切抜きを貼付。沖縄県波照間島のユイ、考古学者佐原真の連載記事、金日成死去、韓国での塩輪出土、「平安京への道しるべ」書評など。多くの記事にコメントを付している。
293	Y141	3	人生精進のたわごと 巻8 日記に代えて	平成6年	1994年	息子大二郎氏らと田子倉ダムなど旅行した際のメモを記し、注を記したパンフレットなどを貼付。小名浜の万祝、安達ヶ原黒塚についての新聞記事を切抜きなどを貼付けてコメントを記す。

ノット番号	整理番号	旧箱番号	標 題	年代(和暦)	年代(西暦)	主 内 容
294	Y142	3	人生精進論 巻8 人生論の究極へ(1)	平成6年	1994年	「広島原爆50回忌」と題した新聞記事など、戦後50年を迎えての歴史認識や日米・アジア諸国との関係に関する新聞記事などの切り抜きを貼付。他にも、いじめ問題や、「ゆっくりに地震」の仕組み探る」と題した地震メカニズムについての新聞記事などを貼付。
295	Y143	3	人生精進たわごと 雑記帳 巻9 日記に代えて	平成6年	1994年	新鶴村公共施設落成の新聞記事や資料などを貼付。他にも新聞記事の切り抜きを貼付し、自然環境や景観、ダム建設、老人福祉など。東京オリンピックや長寿番付、もったいない運動などの記事には多くのコメントを付している。
296	Y144	3	人生精進論 巻9	平成6年	1994年	阪神淡路大震災をはじめとする地震関連、福島原発事故と戦後50年、脳死問題、比叡山千日回峰行、鶴ヶ城天守閣重文の盗難と問題点等に関する新聞記事の切り抜きを貼付。
297	Y145	3	人生精進たわごと 日記 雑録 巻10	平成7年	1995年	平成7年オウム真理教の強制捜査、鶴ヶ城天守閣博物館から恵日寺の白銅三鈷杵や国指定の仏像が盗難された事件の新聞記事などの切り抜きを貼付。
298	Y146	3	人生精進論帰郷 第10巻 人生論の究極へ(3) 郷土回顧随想より宗教論へ	平成7年	1995年	地下鉄サリン事件、原爆投下と被爆問題、会津若松景観賞、柳田国男の三陸、民俗学の行方等に関する新聞記事の切り抜きを貼付。
299	Y147	3	人生精進たわごと 雑録 日記 巻11	平成7年	1995年	新聞記事の切り抜きや各種案内・手紙等を貼付。五十嵐勇作編『会津歴史年表』及び安藤紫香『奥会津の民俗』出版祝賀会(平成7年8月26日)の祝辞原稿。
300	Y148	3	人生精進論帰郷 11巻 宗教論人生論へ	平成8年	1996年	宗教に関する新聞記事の切り抜きを貼付。「宗教・邪教論への展開」「日本民俗の宗教発達史再検討」と題したメモをはじめ、書込みを記す。食品や食文化などに関する新聞記事の切り抜きも貼付。
301	Y149	3	人生精進のたわごと 雑録記 巻12	平成8年	1996年	式典等の案内、葉書などを貼付。敬老の日、県文化功労賞、自身の新鶴村名誉村民議案の記事等の新聞記事の切り抜きを貼付。
302	Y150	3	人生精進論 第13巻 95歳迎えて大病記録	平成8年	1996年	新聞記事の切り抜きを貼付。ペルーの日本大使公邸人質事件、有森裕子のアトランタオリンピック3位、創価学会の教義改革案、香港返還に関する記事などにコメントを付している。自身の病状に関するメモなど。
303	Y151	3	人生精進再出発論(大病回復後の人生) 14巻	平成9年	1997年	自身の病気の経過について記す。併せて大病後に新たに目標に向かう意気込みが記述されている。出生地新鶴村名誉村民、安達太良で4人遭難、斉藤清氏死去の新聞記事等の切り抜きを貼付。
303	Y152	3	人生精進のたわごと 雑録 巻13(大病回復後の再生活)	平成9年	1997年	祝賀行事の案内、ダイアナ妃死去、連載「歳時記の里から」、「目で見える福島」など福島県内の文化や民俗に関する新聞記事の切り抜きを貼付。
304	Y155	3	人生精進雑録 巻14	平成10年	1998年	福島市の宮畑遺跡(縄文時代)、長野冬季オリンピックの日本勢の活躍、大戸窯の福島県史跡指定、自民党惨敗と橋本首相退陣等の新聞記事の切り抜きを貼付。
305	Y154	3	人生精進雑録 巻15	平成10年	1998年	宗教論などに関する新聞記事等の切り抜きを貼付。道教、儒教、神道、仏教、修験道、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教、ヒンドゥー教などに山口がコメントを記述。他に、日本宗教史年表や奈良県キトラ古墳、仏教会津と高寺伝承の新聞記事等を切り抜いて貼付。
305	Y153	3	人生精進記録 巻15	平成10年	1998年	「宗教論」として、神道やキリスト教などの成立宗教に対するメモ。「仏教会津と高寺伝承」の記事を切り抜いて貼付。他にキトラ古墳、福島県会津坂下町の森北一古墳の発掘、インド・パキスタンの核実験、イラク空爆、自民党新井代議士自殺(日興証券事件)などの新聞記事等を切り抜いて貼付。